

海津市地域福祉活動計画

令和7年度

地区福祉活動計画



社会福祉法人 海津市社会福祉協議会

目 次

1 地区福祉活動計画について

1. 策定の目的	3
2. 「地域福祉活動計画」と「地区福祉活動計画」との関係	3
3. 活動計画策定の流れ （問題の把握→協議・計画策定→実行→評価）	4

2 地区福祉活動計画 （10地区）

1. 計画の期間	7
2. 見直しの時期	7
3. 地区福祉活動計画（10地区）	8
① 高須地区	9
② 吉里地区	19
③ 東江地区	25
④ 大江地区	33
⑤ 西江地区	41
⑥ 今尾地区	49
⑦ 海西地区	55
⑧ 下多度地区	63
⑨ 城山地区	77
⑩ 石津地区	87

資料1 海津市地域福祉推進計画

計画の策定にあたって	100
計画の基本理念と基本理念と施策体系	102

資料2 地区社会福祉協議会

1. 地区社会福祉協議会（地区社協）とは・・・	104
2. 地区社協の役割	104
3. 市社会福祉協議会と地区社協の関係	105
4. 地区社協設立の経過	105
5. 地区社会福祉協議会連絡会	105
6. 地区社協の活動	106

第 1 章

地区福祉活動計画について

1. 策定の目的

海津市では、市の施策や考え方を位置づけた「地域福祉計画」と、市社会福祉協議会（以下、「市社協」という。）の取組みを位置づけた「地域福祉活動計画」に基づき、3期にわたって地域福祉を推進してきました。

令和5年3月に策定した地域福祉推進計画は、社会経済情勢や市民ニーズなどの変化を踏まえつつ、複雑化・複合化した福祉課題に対応するため、市と市社会福祉協議会（以下、「市社協」という。）が連携を図り、実効性の高い施策を展開する必要があることから、市の「地域福祉計画」と市社協の「地域福祉活動計画」を一体化しました。地域福祉推進計画では、自助（自分でできること）、互助・共助（地域住民同士がささえあう）、公助（行政サービス）が連携することによって解決する取組みを基本的な考え方としています。

海津市では、市内10地区で地区社会福祉協議会（以下、「地区社協」という）が、互助・共助の視点に立って、地域での福祉課題や生活課題への支え合いや助け合いの活動、事業を住民主体で展開しています。

地区福祉活動計画は、地区社協が年度ごとに策定し、地域課題に対する推進方法を自助（自分でできること）、互助（地域でできること）、公助（行政や市社協に依頼すること）の3つの視点でまとめ、役割分担を明確化しています。特に互助については、地区社協が重要な担い手となっていることから、地域を構成するすべての人が、主体的に支え合い、きめ細かな仕組みづくり・地域づくりを進めることができるよう、本計画を策定しました。

2. 「地域福祉活動計画」と「地区福祉活動計画」との関係

「地域福祉活動計画」と「地区福祉活動計画」は、それぞれの課題を解決する上で相互に補完し合う水平的なパートナーの関係であり、連携連動する計画となります。

また、市社協は、地区社協の運営をバックアップし、基盤強化につながるよう地区福祉活動計画の策定、実施、評価を支援します。

3. 活動計画策定の流れ（問題の把握→協議・計画策定→実行→評価）

①地区の住民が抱えている福祉課題を明確化（問題の把握）

地区内でどのような福祉課題があるのか、地区社協の地域福祉懇談会の中で、住民や当事者、各関係団体等と話し合いの中から明らかにしました。また、必要に応じて福祉課題の把握のための調査を行いました。



②取り組む活動計画の策定（協議・計画策定）

地区社協の役員会、部会等で地区内の福祉課題を分析し、具体的な活動方法を決定しました。住民自身が解決を望んでいるもの等を整理し、“だれが” “いつ” “どのように” 取り組むのかを明らかにし、解決するための活動計画を立案しました。住民や各種団体との連携、役割分担、PR の方法等を検討するとともに、地域住民に問題を提起し、解決のために理解と協力を求めました。



③年間計画に沿った事業、活動の実施（実行）

各地区で年間計画に沿った事業を行いました。各地区社協の役員、運営委員、部会員など、住民主体で活動を行いました。



④事業の見直し（評価）

地区社協において、活動計画に基づき事業が実施されていますが、その事業の日常的かつ継続的な点検及び評価が必要不可欠です。点検及び評価をすることで、事業を見直すきっかけになり、新規事業の掘り起こしにもつながります。さらに、「地域福祉活動計画」の評価にも有効なものになります。年度末には事業の見直しを行い、次年度の事業の計画を策定します。

第 2 章

地区福祉活動計画（10地区）

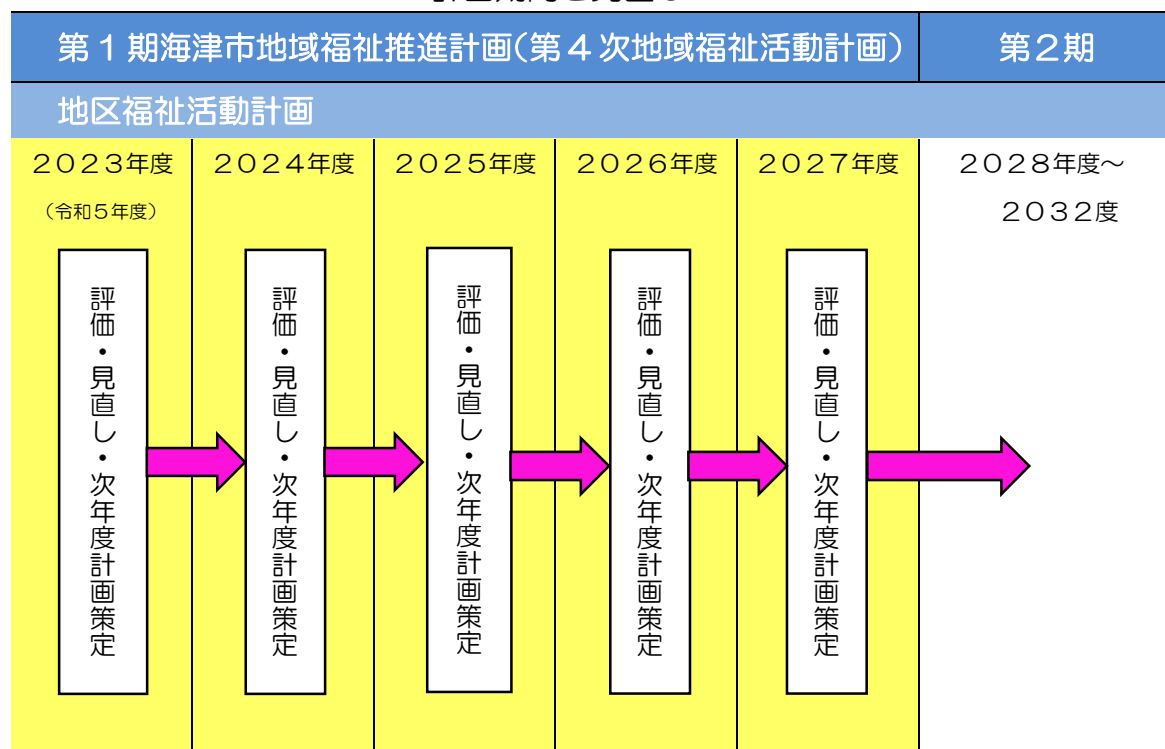
2 地区福祉活動計画（10地区）

1. 計画の期間

「第1期海津市地域福祉推進計画」（第4次海津市地域福祉活動計画）は、2023（令和5）年度から2027（令和9）年度までの5年間です。

「地区福祉活動計画」は、福祉課題によりきめ細やかな事業を行えるよう、計画の評価・見直し・計画策定を、毎年度行っています。

計画期間と見直し



2. 見直しの時期

見直しは、年度末（2月～3月）に行い、次年度の計画に反映させます。

3. 地区福祉活動計画（10地区）

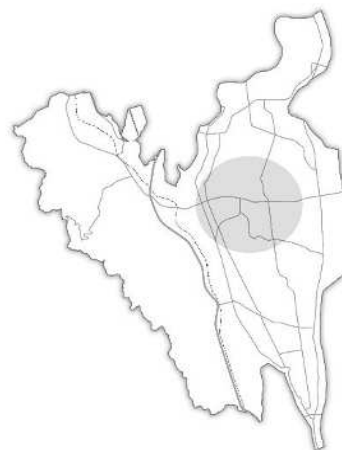
市内10地区社協における「令和6年度地区福祉活動計画評価表」と、「令和7年度地区福祉活動計画」を掲載します。

1

高 須 地 区

【スローガン】

地域の交流を促すために
地域の輪を広げる



【海津地区の人口】

	海津市		海津地区	
	2008年 4月1日	2025年 4月1日	2008年 4月1日	2025年 4月1日
人口	39,321人	31,255人	14,431人	11,558人
対人口比	100.0%	100.0%	36.7%	37.0%
年少人口	5,187人	2,631人	1,901人	931人
年少率	13.2%	8.4%	13.2%	8.1%
高齢者人口	8,494人	11,487人	2,999人	4,205人
高齢化率	21.6%	36.8%	20.8%	36.4%
後期高齢者人口	4,077人	6,197人	1,446人	2,231人
後期高齢化率	10.4%	19.8%	10.0%	19.3%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【高須地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所	高須認定こども園		岡田医院
海津市海津図書館	子育て支援センターかいづ	海津小学校	おおや内科循環器科
海津市市民プール	発達支援センター「くるみ」	日新中学校	小坂井レディースクリニック
海津市消防署	児童発達支援事業所みらい	海津明誠高等学校	とみなり整形外科
海津市OCT文化センター	海津市はばたき (生活介護) (就労継続支援B型)		河村歯科クリニック
木曾三川輪中ミュージアム			高須歯科
海津総合福祉会館「ひまわり」	デイサービスおひさま		田中歯科医院
海津警察署	地域密着型特別養護老人ホーム たかすの華		水谷歯科クリニック
海津郵便局	オレンジ・ハート (デイサービス) (有料老人ホーム)		ひなた在宅クリニック
	オレンジ・ライフ(デイサービス)		
	からふる庭園(有料老人ホーム)		

令和6年度 高須地区福祉活動計画評価表

スローガン		地域の交流を促すために、地域の輪を広げる
重点課題		地域のふれあいの活動の機会を逃さず、活動につなげる
事業名	推進方法	評価
ブロック活動		
Aブロック	「地域あいさつ運動」を各自治会において「交通安全街頭啓発巡視」の日に合わせて実施し、あいさつや見守りの声掛けを通して住民同士のコミュニケーションを図る。	○
Bブロック	あいさつ運動や 世代間交流を具体化し実現する。各自治会長が集い話し合い、解決方法を見いだしてできることを実践して行く。	△
Cブロック	自治会長や福祉関係の役員の連携協力を強化する。困りごとを把握し、小さな助け合いにつなげる。心ある人の結集を図り、具体的事例を共有し支援する。	○
Dブロック	住民が孤立しないようつながりの機会をつくっていく。ラジオ体操、クイズ大会などの世代間交流イベントの確実な実現を図る。	△
Eブロック	世代間交流のほか、ブロックの課題を見つけて活動につなげる。地域が広く、転入者も多いので、横のつながりを通して地域の温度差を無くしていく。	○
高須地区社協として	ブロック活動と部会活動を合わせて 概ね実施出来た。	○
現状及び今後の方針		
ブロック活動		
Aブロック 地域あいさつ運動 ハイキング大会 地域福祉懇談会	○地域あいさつ運動（原則として月1回） ・のぼり旗を掲げて、朝の登校時のあいさつと見守り活動を月1回行った。自治会に呼びかけて、活動の輪を広げようとしたが、十分な協力は得られなかった。 ○世代間ふれあい交流～ハイキング大会～ ・慎重にハイキングコースを選定した。（羽根谷だんだん公園スタンプラリーコース）天候に恵まれて多く（89名）の参加者が得られた。普段会えない人（大人も子どもも）が一緒に山歩きをしながら、話し合い、助け合いをして、友達が出来なかよしになった。 ○地域福祉懇談会を5月と3月に実施して、地域の現状と問題点と課題について話し合った。	
Bブロック あいさつ運動	○あいさつ運動（7/1～30、12/1～30） のぼり旗を地域内に掲げて、住民に周知するとともに、あいさつすること（声掛け）を意識づけること。 ○世代間交流事業は実施できなかった。	
Cブロック あいさつ運動 世代間交流事業 福祉懇談会	○親子で地区内ピッカピカとゲーム ・世代間交流をめざして、ゲーム大会や体操を行った。多くのゲームを用意した。参加者は楽しむことができた。 ○あいさつ運動は各自治会で実施、全ブロック実施の期間に合わせて行った。 ○懇談会は世代間交流事業の打合せ時に行った。	

Dブロック あいさつ運動 世代間交流事業 福祉懇談会	○あいさつ運動（9/1～12/31）（7/1～7/15）（12/1～12/15） 例年通りの挨拶運動期間と地区社協の運動期間に実施下、特に今年は小学校統合の為、学校付近での活動が多かった。 ○世代間交流事業 自治会数が多く（13自治会）まとまり切れなかったのが実情で残念ながら実施できなかった。 ○懇談会は交流事業の打合せ時に行った。
Eブロック あいさつ運動 世代間交流事業 福祉懇談会 広報紙の発行	○あいさつ運動（7/1～7/15）（12/1～12/15） 全ブロック実施期間に並行して実施。各自治会に実施方法は委ねた通学路や集会所付近で実施。 ○世代間交流事業 平原公園で盆踊り大会を実施。多くの参加者（約120名）があった。地区社協のイベント部会との共催として開催した。子ども食堂とラジオ体操は残念ながら実施出来なかった。 ○地区懇談会は各事業打合せ時に行い、12月には海津警察署から詐欺や防犯、交通安全について講話とお楽しみ会を実施した。 ○その他の事業として「Eブロックだより」を3回発行した。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 高須地区福祉活動計画評価表

スローガン		地域の交流を促すために、地域の輪を広げる
重点課題	高須地区全体を見渡す視点で課題を見つけ出し、活動につなげる	
事業名	推進方法	評価
部会活動		
総務部会	民生委員児童委員、福祉推進委員、自治会長に対しての学習会（広報を兼ねる）	△
防犯防災部会	防犯防災に役立つ活動、消防署員による講習（応急手当・仮設トイレ・タンカー）	○
生活支援部会	①ちょボラ部との協力 ②広域サロンの開催 ③他の関連団体との連携	○
イベント交流部会	地域の伝統行事に関する祭りの開催、夏祭りへのブース参加。	○
ちょボラ部会	今年度の発足の為、まづは引継ぎと打合せ	△
高須地区社協として	ブロック活動と部会活動を合わせて 概ね実施出来た。	○
現状及び今後の方針		
部会活動		
総務部会 拠点整備活動 あいさつ運動 スキルアップ活動	・再度、組織、規約の問題点の検討は来年度に持ち越す。（研究課題として扱う） ・拠点が決定し、細目の取り決めができなくて、進行が遅れた。 ・あいさつ運動強調月週間を設けて、7月と12月に実施。 ・小さな親切運動は5件ほど表彰する予定。 ・役員の視察研修（実施できず）	
防犯防災部会 防災活動 防犯活動 交通安全への取り組み	・避難者カードを作成した。説明会やスマホの利用等を行い、最後にスマホからプリントアウトをしてすべての手順を説明した。 ・防犯活動としては、8月10日に海津警察署から詐欺や交通安全等の講話とチラシの配布を行っていただいた。 ・交通安全への取り組みとして、「安全運転自己診断」をスマホで行った。	
生活支援部会 コーディネーター会議 部会会議 広域サロン 子育て支援	・コーディネーター会議と部会会議を毎月開催、各種問題や実施方法等の検討 ・広域サロンは、「ひまわり」で7月27日と3月15日の2回実施。延べ85名が集まった。 ・子育て支援活動は残念ながら実施できなかった。	

イベント交流部会 お達者ですかいの開催 夏祭りの実施 伝統文化の研究	・市社協から事業助成を受け、「お達者ですかい」を11月23日に海津総合福祉会館ひまわりで実施。61名の参加者で海津警察署員の講話や、お食事会、お楽しみ会を実施した。2月28日は来年度に向けての意見交換会（反省会）を行った。 ・8月17日に夏祭りを平原サロンと共催、自治会、営農組合等の協力をえて開催した。多くの反省点が見つかり、来年度へ持ち込みたいと思う。 ・伝統文化に関しては、国民文化祭を研究しようと考えたが、実施出来なかった。海津の祭り等を研究する事も検討したい。
ちょボラ部会 役員会・部会会議の開催 民生委員・福祉推進委員との合同会議 ニーズの収集（アンケート） ちょボラ活動の実施	・役員会や部会会議を述べ9回開催し、活動の方法や新しいニーズ（買い物）に対して打合せを行った。 ・6月1日に合同会議を開催、協力を求めたところ、快い返事を頂いた。 ・ちょボラ活動は、ゴミ出し、照明器具の取り換え、ちょっと修繕、庭木の選定、片付け、買い物代行、薬の受取等合計15件の活動を行った。 ・新しいニーズとして「買い物支援」事業に対して研究とアンケートを実施した。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 高須地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域のふれあいの活動の機会を逃さず、活動につなげる
----------------	---------------------------

事業名	
Aブロック	①地域あいさつ運動 ②ハイキング大会
Bブロック	①あいさつ啓発運動
Cブロック	①福祉懇談会 ②世代間交流事業
Dブロック	①あいさつ啓発運動
Eブロック	①世代間健康運動（ラジオ体操） ②地区懇談会

地域の課題（背景）	
Aブロック	地域あいさつ運動や単発的なハイキングに終わらせることなく、地域の人たちが子育てについて気軽に話することができる風土をつくりたい。（いいほうのブロックと思う）
Bブロック	今の時代！Ｔやスマホで情報がすぐ手に入り、人の手を借りずにすむ時代になり、集まる機会が少なくなった。特に老人の孤立化が目立つ。
Cブロック	集まる機会が少なく、孤立化が増えている。住民のつながりが弱くなり、状況がつかめない事態が進んでいる。
Dブロック	今の時代！Ｔやスマホで情報がすぐ手に入り、人の手を借りずにすむ時代になり、集まる機会が少なくなった。特に老人の孤立化が目立つ。
Eブロック	育成会（子ども会）の活動がなくなり、子育て世代の福祉への関心が薄れている。福祉＝高齢者のイメージが強いが、誰にでも関係があることを伝えていきたい。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
Aブロック	「地域あいさつ運動」を各自治会において「交通安全街頭啓発巡視」に合わせて実施し、あいさつや見守りの声掛けを通して住民同士のコミュニケーションを図る。
Bブロック	自治会長・福祉推進委員・民生児童委員・他福祉関係の役員の連携協力を強化する。
Cブロック	自治会長や福祉関係の役員の連携協力を強化する。困りごとを把握し、小さな助け合いにつなげる。心ある人の結集を図り、具体的事例を共有し支援する。
Dブロック	自治会長・福祉推進委員・民生委員児童委員・他福祉関係の役員の連携協力を強化する。
Eブロック	世代間交流のほか、ブロックの課題を見つけて活動につなげる。地域が広く、転入者も多いので、横のつながりを通して地域の温度差を無くしていく。

自助(自分でできること)	
Aブロック	福祉活動に関心を持ち、自分でできることから取組み、参加する。
Bブロック	一人暮らしの方への声掛け活動を実施する。
Cブロック	隣近所や親しい人への声掛け、小さなお手伝いを実践する。
Dブロック	一人暮らしの方への声掛け活動を実施する。
Eブロック	福祉活動に関心を持ち、自分ができることに参加する。近隣にも声を掛ける。

公助（行政や社協に依頼すること）	
Aブロック	円滑な福祉活動を持続するためのシステムづくりに協力。援助
Bブロック	市職員や民生委員の見守り訪問を強化してほしい。
Cブロック	地区連携の推進方法の学習会、実践方法についての協力と予算面での援助
Dブロック	市職員や民生委員の見守り訪問を強化してほしい。
Eブロック	無理のない活動を維持するためのシステムづくりに協力・助言

令和7年度 高須地区福祉活動計画

重 点 課 題	海津小学校の活動を見据えて高須地区としての問題や課題を見つけ出し、活動につなげる
----------------	--

事業名	
総務部会	①組織・規約の問題点の見直し ②あいさつ運動の推進（7月,12月） ③小さな助け合い運動 ④研修会 ⑤地域福祉活動計画の推進
防犯防災部会	①防災・減災に役立つ活動 ②交通安全運動の推進 ③防犯に関する取り組み
生活支援部会	①サロン活動の普及・助言・協力 ②子育て支援活動や地域助け合い活動の普及等 ③地域の枠を超えた活動（ネットワーク、サロン） ④広域サロン活動を続け、活発化する。
イベント交流部会	地域の活性化を図る活動 ①ひとり暮らし高齢者のつどい ②地域イベントへの支援
ちょぼら部会	買い物等の外出支援活動の実施

地域の課題（背景）	
総務部会	①地区社協、部会、ブロックやその仕組みについてわからない人、知らない人、誤解している人が少なくない。 ②活動の内容や理由も周知されていない。
防犯防災部会	①防災・減災活動は、私たちの地域社会の未来を守るうえで 最も重要な課題です。小学校での避難訓練も数年前と同じです。行政の長期計画も私たちの活動と関連付けが不透明になっています。各自治会の防災活動組織も休眠組織が多い状態です ②危険箇所の点検 ③防犯に関する課題収集（詐欺、盗難、窃盗、SNS犯罪、子供、老人等）
生活支援部会	①要支援者に対する日常的なケアが重要である。 ②住民の孤立・孤独を和らげる事業が必要不可欠である。 ③高齢者の足の確保を考える。
イベント交流部会	①ようやく一人暮らし高齢者の交流会が対面方式で開催できるようになった。 ②他部会との協力体制を作り（広域サロン等）社会の情勢に応じて、人と人が交流できる場をつくるよう努めたい。
ちょぼら部会	①買い物支援のニーズが多くあった。 ②高齢者の足の確保が問題視されている。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
総務部会	民生委員児童委員、福祉推進委員、自治会長に対しての学習会（広報を兼ねる）
防犯防災部会	①避難訓練の働きかけ、行政の方針との整合性を確認し、各自治会の防災組織の実効性も確認、各地域の防災マップの整備などを行う。 ②危険箇所マップ作成。防犯パトロール。お年寄りおよび子供中心の防犯教育。 ③情報セキュリティなど参考情報の配布、講演会の実施。
生活支援部会	①ちよボラ部との協力 ②広域サロンの開催、他団体との連携や協力 ③他の関連団体との連携
イベント交流部会	地域のイベントとの協力や共催の方法を研究する。（主催者・費用・方法等）
ちよボラ部会	・買い物支援に対しては、市社協の協力（車等）を得て実施してみる。 実施方法として①利用者登録、②出来る事の内容等

自助(自分でできること)	
総務部会	定期的な話し合いの場を設ける。
防犯防災部会	社会的弱者（高齢者、子ども）への積極的配慮
生活支援部会	部員、役員の交代時の引継ぎを確実に行う。 向こう三軒両隣、親しい人への見守りと声掛け
イベント交流部会	生活の中で 交わる人と 交流し、ボランティアの 人材発掘に努める。
ちよボラ部会	部員の確保の為、チラシで募集・口コミ作戦・他団体の協力

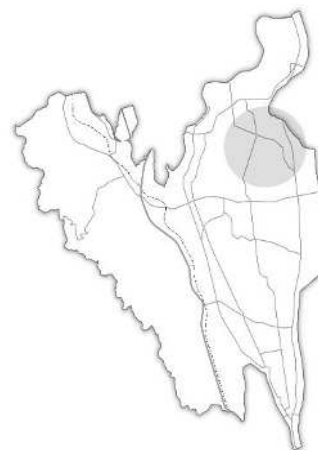
公助（行政や社協に依頼すること）	
総務部会	十分な参考資料の提供、適切なアドバイス
防犯防災部会	①行政及び自治連、社協と連携して、役割分担を明確にして取り込む。 ②警察署、交通安全協会などと連携強化し、活動支援をお願いする
生活支援部会	会場の確保や予算の融通等適切なアドバイス 福祉活動団体の活動内容の整理と合理的な仕分け
イベント交流部会	企画へのアドバイスと協力、ボランティア団体の紹介、活動費の援助
ちよボラ部会	活動へのアドバイスと協力、ボランティア団体の紹介、活動費の援助

2

吉里地区

【スローガン】

絆を深める吉里



【海津地区の人口】

	海津市		海津地区	
	2008年 4月1日	2025年 4月1日	2008年 4月1日	2025年 4月1日
人口	39,321人	31,255人	14,431人	11,558人
対人口比	100.0%	100.0%	36.7%	37.0%
年少人口	5,187人	2,631人	1,901人	931人
年少率	13.2%	8.4%	13.2%	8.1%
高齢者人口	8,494人	11,487人	2,999人	4,205人
高齢化率	21.6%	36.8%	20.8%	36.4%
後期高齢者人口	4,077人	6,197人	1,446人	2,231人
後期高齢化率	10.4%	19.8%	10.0%	19.3%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【吉里地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
吉里郵便局	わかば海津北こども園		
	吉里地区社協事務所		
	あいさんハウス・ぎふ (共同生活援助) (生活介護) (短期入所) (就労移行支援) (就労継続支援B型) (放課後等デイ)		

令和6年度 吉里地区福祉活動計画評価表

スローガン		絆を深める吉里
重点課題		たくさんの方にサロンに参加してもらえるようにする
事業名	推進方法	評価
サロン吉里の充実	①参加者について ・当番表を作成して、自治会長、福祉推進委員の方に参加を呼びかける。 ・集う会等計画した活動の参加を呼びかける。	△
	②ボランティアについて ・サロン通信でボランティアの募集を継続的に行う。 ・ボランティアの活動内容をサロン通信で具体的に紹介する。	○
現状および今後の改善点		
・参加できそうな方々への直接的な声かけ、今参加してみえる方々からの声かけが効果的では？ ・吉里地区は元気に働く高齢者が多く、声をかけてもなかなか参加してもらえない。 ・誰もが気軽に取り組める小物づくりなどがあると参加しやすいと思う。 ・サロンの実施について計画を立て、毎週実施しているが、担当の先生方も準備など何かと大変だと推察する。実施回数について毎週実施しなくていけないものなのかよくわからない。 ・以前近所の方にサロンの声かけをしたら来てくれたのですが、声かからないと行きづらいのか？冷蔵庫にサロンの日程表貼ってあると言ってみえたが、一度行っただけでは次回から「自発的に参加」まではしてもらえなかった。 ・全く参加活動、お手伝いが平日当番では仕事があり出来なかった。家族の体調不良が続き今年度は難しかった。来年度は出来る限りお手伝いしたい。 ・遠方の住民は参加しづらい。 ・一部の限られた人だけの活動になっている。現役世代の人は、関心がない、いろいろ忙しい。高齢者の人は、活動がおっくうである。推進方法を地道に続ける。 ・当番について、5年度は出席者が多かった。6年度についてはなかなか出てもらえなかった。 ・若い世代の方が4, 5名増えてうれしく思う。 ・サロン吉里は誰でも集えるサロンなので、紙面だけでなく、ネットを使い若い方、他地域の方にも参加していただけると良い。 ・サロンに来ていただけるようになった方に、お手伝いをさせていただく形で、ボランティアをしていただく。 ・せっかく当番表を作成していただいているのに自治会長・福祉推進委員の方のご協力が無いのは残念である。割当日に都合がつかない場合は、他の開催日に来所いただくように案内文書に追記してもらえると良いかも。 ・平日のボランティア活動は時間が取れなくて、参加できないが、一度、参加して現状のままで良いと思う。 ・自分の生活に手いっぱいであり、なかなか・・・昔のように隣との付き合いが少なく、高齢者も家の中に巣ごもりしてしまっている。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 吉里地区福祉活動計画評価表

スローガン		絆を深める吉里
重点課題		地域住民で高齢者への声かけをする
事業名	推進方法	評価
声かけ、見守り活動	①サロンに参加できるように働きかける。 ・サロン通信に活動写真を掲載し、詳しく伝えていく。	○
	②高齢者への見守りや声掛けをする。 ・各自治会を中心に連携推進し、充実を図る。 ・高齢者に声かけを行い、サロンでの活躍できる場を作る。 ・役員同士だけではなく、地域全体で取り組んでいく。	△
現状および今後の改善点		
・各集会所に出張してみてもどうか？ ・地域に1人だけ通信をお持ちの方がおり、一人暮らしの方なので車があることを見計らって訪問していた。 ・1人ではなかなか参加しづらいので、数人の方で来てもらえると参加しやすくなると思う。 ・サロン通信も2つの方法ですし、声かけすることも必要だと思う。 ・サロン通信等で参加者の呼びかけをしているが、高齢者が外へ出て参加するという気力が薄い気がする。 ・行けば楽しく過ごせると思うので、ただ、明日、明後日くらいなら忘れる事はないだろうけど、来週とか日にちが先だとうっかり行くのを忘れることもあるのでは？「明日ありますよ」くらいの声かけはしていきたい。一斉ラインは高齢者には無理か？ ・サロン活動ができなかった理由といっしょで声かけ見守りも出来なかったが、高齢者の姿は気にして見ていた。来年度はしっかり声かけ、見守りを行いたいと考えている。 ・一部の限られた人だけの活動になっている。現役世代の人は、関心がない、いろいろ忙しい。高齢者の人は、活動がおっくうである。推進方法を地道に続ける。 ・小学校統合に伴い住民の横のつながりが少なくなってきた。サロン活動を通して横のつながりを深めよう。 ・新しいメンバーの方が参加するのは難しい。高齢になると足がなくなるので、サロンに来ること自体が難しくなるのでは？ ・サロンに高齢者の方が多く来ていただけるように、自治会の方に協力していただけると良い。交通手段を考えていく。ネットでも配信する。 ・吉里地域の自治会活動が減少傾向にあると思う。高齢化が進んでるので、各自治会で年に数回皆が集まれる会を催していただけると良い。 ・個人的にこの役をいただきながらも、見守りをする方が施設に入居されていて、一度もお会いできなかったのが、残念に思う。 ・友人に声かけをするのだが、サロンへは来てくれない。どうすればよいか。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 吉里地区福祉活動計画

重 点 課 題	たくさんの方にサロンに参加してもらえるようにする
事業名	
サロン吉里の充実	
地域の課題（背景）	
・参加者、ボランティアの固定化されつつある。 ・地域が一つになって何かを作り上げるような活動が少なく、人との関係が希薄になってきている。 ・参加者が高齢化し、施設入所などの理由で減少し参加意欲が低下してきている。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）	
①参加者について ・当番表を作成して、自治会長、福祉推進委員の方に参加を呼びかける。 ・集う会など計画した事業において、参加しやすい環境を整える。 ②ボランティアについて ・サロン通信でボランティアの募集を継続的に行う。 ・ボランティアの活動内容をサロン通信で具体的に紹介する。	
自助(自分でできること)	
・積極的にサロンに参加をする。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・出前講座の依頼。 ・先進地などの情報提供。	

令和7年度 吉里地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域住民で高齢者の声かけをする
---------	-----------------

事業名
高齢者の声かけ、見守り活動

地域の課題（背景）
・役員だけでの見守りでは限界がある。 ・高齢化が進み、話す機会が少なくなっている。 ・高齢者が家に閉じこもりがちになっている。

推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）
①サロンに参加できるように働きかける。 ・サロン通信に活動写真を掲載し、サロンの魅力を伝える。 ②高齢者への見守りや声かけをする。 ・各自治会を中心に連携推進し、充実を図る。 ・高齢者に声かけを行い、サロンでの活躍出来る場をつくる。 ・役員同士だけでなく、地域全体で取り組んでいく。

自助(自分でできること)
・近隣高齢者等に声をかける。

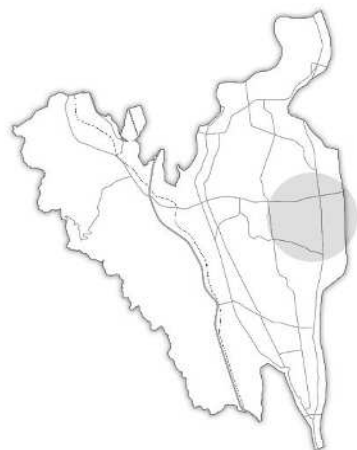
公助（行政や社協に依頼すること）

3

東江地区

【スローガン】

つ長良まいか
心と心のまち 東江



【海津地区の人口】

	海津市		海津地区	
	2008年 4月1日	2025年 4月1日	2008年 4月1日	2025年 4月1日
人口	39,321人	31,255人	14,431人	11,558人
対人口比	100.0%	100.0%	36.7%	37.0%
年少人口	5,187人	2,631人	1,901人	931人
年少率	13.2%	8.4%	13.2%	8.1%
高齢者人口	8,494人	11,487人	2,999人	4,205人
高齢化率	21.6%	36.8%	20.8%	36.4%
後期高齢者人口	4,077人	6,197人	1,446人	2,231人
後期高齢化率	10.4%	19.8%	10.0%	19.3%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【東江地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
東江警察官駐在所	東江こども園		歯科加藤医院
東江郵便局			

令和6年度 東江地区福祉活動計画評価表

スローガン	つ長良まいか 心と心のまち 東江
-------	------------------

重点課題	東江地区社協活動の情報が行き届いていない	
事業名	推進方法	評価
東江地区社協普及啓発	①東江地区社協だよりを発行 ・地区社協の活動報告や行事の案内をお知らせする情報紙を年数回発行する。 ・事業の実施以外にも、学校行事や関係団体の紹介や啓発記事を掲載する。 ・役員間でSNS（LINEなど）を使い、地区社協として発信できる情報を共有し、掲載記事を検討する。 ・地区全体に周知するため全戸配布する。 ・編集作業に負担が大きいため、役員で協力する。また編集の担い手の増員をする。	×
	②東江地区社協の啓発用品を活用 ・身近にある住民が必ず寄る場所（ゴミステーションなど）に設置された掲示板を有効に活用し、地区社協や地域の行事をお知らせしたりして、情報を提供する。掲示板から提供された情報が、住民同士の会話のきっかけとなるようにタイムリーな情報を掲示する。 ・各自治会長にさまざまな情報の掲示や活用を再度お願いする。	×

現状及び今後の方針

①計画的に事業、行事が実施できなかったこと、また、担当がすべての事業、行事に参加することが難しかったこともあり、発行できなかった。編集の負担も大きく、記事、写真等のデータの提供や編集作業への協力をいただきたい。また担当者の増員も必要。サロン通信やチラシとあわせて発行していきたい。
②地区に設置した啓発用の看板の使用ができていない。引き続き、自治会を通じて、看板の活用を再度お願いしていく。自治会単位の情報は、広報や回覧板ではできているところもあるが、地区全体の情報発信ができていない。

重点課題	高齢者への見守りが不十分である	
事業名	推進方法	評価
高齢者の安全確保	①ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯の見守り ・75歳以上、70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、年末見守り訪問を実施する。 ・高齢者を対象に、高齢者を囲む会・ひとり暮らし高齢者のつどい「つ長良まいか」を開催する。 ・実施にあたって自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力をいただき開催する。 ・民生委員児童委員、福祉推進委員を中心とした平素からの見守りを継続する。	○
	②生活安全教室 ・交通安全教室を実施し、地域の事故防止のため住民に参加を呼びかける。 ・海津警察署の協力を得て、多世代が聞いてもわかりやすい交通安全を学ぶ。 ・悪質商法などを消費生活講座で学ぶ。	×

現状及び今後の方針

①自治会ごとに自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区社協役員など、関係者で見守りを行った。高齢者を囲む会・ひとり暮らし高齢者のつどい「つ長良まいか」は開催しなかったが、年末に見守り訪問を行った。お菓子を配布し好評であった。
②小学校の閉校もあり、サロンと共催しての開催を検討したが、日程が折り合わず開催できなかった。平素からの見守り体制は、今後も継続していきたい。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 東江地区福祉活動計画評価表

スローガン	つ長良まいか 心と心のまち 東江
-------	------------------

重点課題	子どもの登下校が危険である
------	---------------

事業名	推進方法	評価
子どもの見守り	①東江地区子ども見守り隊 ・小学校からの要請に基づき、見守りの体制を整える。 （集合場所、送迎ルート、送迎時間の確認が必要。各自治会への周知が必要。） ・安心して児童、生徒が登下校できるよう、地域住民が協力して見守り活動に参加する。 ・東江地区社協が主体になり、地域住民に見守りを呼びかける。 ・登下校の時間帯以外でも、畑仕事や散歩しながらでも、気軽に見守り活動に参加していただけるよう工夫する。（車の中にベストを吊るすなど） ・見守り活動の際には、防犯の啓発も兼ねて見守りベストを着用し活動する。また、必ず見守りベストを着用するように周知する。 ・見守りボランティア活動への参加を更に周知する。	△

現状及び今後の方針
東江小学校が閉校となったが、できる範囲内で、農作業をしながら、ゴミ出しをしながら等、登下校の見守りを行った。協力体制や見守り体制など、地域により温度差があるため、海津小学校からの要請により、今後も見守りの体制を整えていく。

重点課題	世代間のつながりが乏しい
------	--------------

事業名	推進方法	評価
世代間交流事業	①サロン東江の開催 ・月1回サロン東江を開催する。 ・サロンへの参加を呼びかけるとともに、積極的に参加する。 ・月ごとに、地区内の各自治会集会所で持ち回りで行うなど、開催場所を工夫し、参加者を増やす。 ・高齢者に限らず、子どもや働く世代が参加できるように、開催日時についても検討する。 ・地区社協として、地域での交流が広がるように、サロンを積極的に推進する。 ・サロン通信、案内チラシを発行する。自治会へ配布する。 ※地区社協として、自治会での近隣ネットワーク、サロン、いきいきクラブなどでの三世代交流を推進する。情報提供や参加への勧奨など、地区社協で協力できることを実施する。	○

現状及び今後の方針
月1回、サロン東江を開催し、交流の場を設けた。参加者が少ない時もあり、今後も自治会の協力を得ながら、周知や啓発に努めていく。高齢者に限らず、子どもや働く世代が参加できるように、開催日時についても検討する。10月に開催した軽スポーツ交流会は初めての試みであったが、参加者も多く好評であったため、次年度以降も継続していく。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 東江地区福祉活動計画

重 点 課 題	東江地区社協活動の情報が行き届いていない
事業名	
東江地区社協普及啓発	
地域の課題（背景）	
・東江地区社協活動の周知が不足。 ・東江地区社協への関心が低い。 ・自治会によって行事への参加に温度差がある。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）	
①東江地区社協だよりを発行 ・地区社協の活動報告や行事の案内をお知らせする情報紙を年数回発行する。 ・事業の実施以外にも、学校行事や関係団体の紹介や啓発記事を掲載する。 ・役員間でSNS（LINEなど）を使い、地区社協として発信できる情報を共有し、掲載記事を検討する。 ・地区全体に周知するため全戸配布する。 ・編集作業に負担が大きいため、役員で協力する。また編集の担い手の増員をする。 ②東江地区社協の啓発用品を活用 ・身近にある住民が必ずよる場所（ゴミステーションなど）に設置された掲示板を有効に活用し、地区社協や地域の行事をお知らせしたりして、情報を提供する。掲示板から提供された情報が住民同士の会話のきっかけとなるようにタイムリーな情報を掲示する。 ・各自治会長にさまざまな情報の掲示や活用を再度お願いする。	
自助(自分でできること)	
・東江地区社協の活動情報を広める。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

令和7年度 東江地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者への見守りが不十分である
事業名	
高齢者の安全確保	
地域の課題（背景）	
・ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯が年々増加している。 ・地区の役員（民生委員児童委員・福祉推進委員）だけの見守りに限界がある。 ・地区の高齢者が集い、楽しく過ごす時間がほしい。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）	
①ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯の見守り ・75歳以上の高齢者、70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、年末見守り訪問を実施する。 ・高齢者を対象に、高齢者を囲む会・ひとり暮らし高齢者のつどい「つ長良まいか」を開催する。 ・実施にあたって自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力をいただき開催する。 ・民生委員児童委員、福祉推進委員を中心とした平素からの見守りを継続する。 ②生活安全教室 ・交通安全教室を実施し、地域の事故防止のため住民に参加を呼びかける。 ・海津警察署等の協力を得て、多世代が聞いてもわかりやすい交通安全を学ぶ。 ・悪質商法などを消費生活講座で学ぶ。 ・サロン東江開催時に行えるように検討する。	
自助(自分でできること)	
・隣近所のひとり暮らし高齢者や高齢者世帯を日頃から気かけ、見守っていく。 ・行事、イベントの際はできる範囲での送迎を行う、声をかける。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

令和7年度 東江地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもの登下校が危険である
事業名	
子どもの見守り	
地域の課題（背景）	
・児童、生徒の登下校時を見守る住民が少ない。 ・不審者情報が多い。 ・下校時の低学年への見守りを強化したい。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）	
①東江地区子ども見守り隊 ・小学校からの要請に基づき、見守りの体制を整える。 （集合場所、送迎ルート、送迎時間の確認が必要。各自治会への周知も必要。） ・安心して児童、生徒が登下校できるよう、地域住民が協力して見守り活動に参加する。 ・東江地区社協が主体になって地域住民に見守りを呼びかける。 ・登下校の時間帯以外でも、畑仕事や散歩しながらでも、気軽に見守り活動に参加していただけるよう工夫する。（車の中にベストを吊るすなど） ・見守り活動の際には、防犯の啓発も兼ねて、見守りベストを着用し活動する。また、必ず見守りベストを着用するように周知する。 ・見守りボランティア活動への参加を更に周知する。	
自助(自分でできること)	
・積極的に参加し、参加を呼びかける。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

令和7年度 東江地区福祉活動計画

重点課題	世代間のつながりが乏しい
------	--------------

事業名
世代間交流事業

地域の課題（背景）
・自治会単位での世代間交流事業は実施しているが、地区全体の交流がない。 ・近隣住民の関係が希薄している。 ・幅広い世代の方に参加してほしい。 ・参加者を増やしたい。

推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）
①サロン東江の開催 ・月1回サロン東江を開催する。 ・サロンへの参加を呼びかけるとともに、積極的に参加する。 ・月ごとに、地区内の各自治会集会所で持ち回りで行うなど、開催場所を工夫し、参加者を増やす。 ・高齢者に限らず、子どもや働く世代が参加できるように、開催日時についても検討する。 ・地区社協として、地域での交流が広がるように、サロンを積極的に推進する。 ・サロン通信、案内チラシを発行する。自治会へ配布する。 ②軽スポーツ交流会の開催 ・10月に軽スポーツ交流会を開催する。 ・チラシを作成し、自治会を通じて周知する。 ・自治会をはじめ、諸団体で参加者を募る。とりまとめは自治会に依頼する。 ※地区社協として、自治会での近隣ネットワーク、サロン、いきいきクラブなどでの三世代交流を推進する。情報提供や参加への勧奨など、地区社協で協力できることを実施する。

自助(自分でできること)
・積極的に参加する。 ・事業の啓発活動を工夫する。

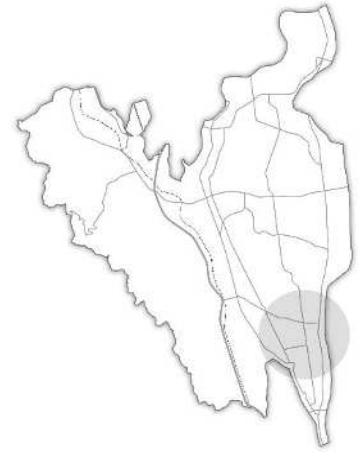
公助（行政や社協に依頼すること）

4

大江地区

【スローガン】

感謝のこころで
ふれあう地域づくり



【海津地区の人口】

	海津市		海津地区	
	2008年 4月1日	2025年 4月1日	2008年 4月1日	2025年 4月1日
人口	39,321人	31,255人	14,431人	11,558人
対人口比	100.0%	100.0%	36.7%	37.0%
年少人口	5,187人	2,631人	1,901人	931人
年少率	13.2%	8.4%	13.2%	8.1%
高齢者人口	8,494人	11,487人	2,999人	4,205人
高齢化率	21.6%	36.8%	20.8%	36.4%
後期高齢者人口	4,077人	6,197人	1,446人	2,231人
後期高齢化率	10.4%	19.8%	10.0%	19.3%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【大江地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津温泉	いちい荘 (就労継続支援B型) (共同生活援助)	総合教育センター	海津市医師会病院
アクアワールド水郷 パークセンター			諏訪歯科医院
	しょうふう海津		
国営木曽三川公園	はつらつ海津		
長良川サービスセンター	はつらつ海津通所リハビリテーション		
大江警察官駐在所	グループホーム海津「福寿苑」		
大江郵便局	グループホーム千本松「福寿苑」		
	グループホーム木曽三川「福寿苑」		
	デイサービスセンター福寿		
	シルバーホームひまわり会館三川公園 (有料老人ホーム)		
	どんぐりの木海津 (有料老人ホーム)		
	リハビリ型デイサービスひだまり		

令和6年度 大江地区福祉活動計画評価表

スローガン		感謝のところでふれあう地域づくり	
重点課題		見守り「地域での見守り活動の積極化」	
事業名	推進方法	評価	
見守り活動の促進事業	○子どもたちへの見守り ・登下校の見守りを行うため、学校・保護者と協力し、バス停毎の当番表を作成する。 ・増員を図るため、地区社協便りにて見守りボランティアを募集する。 ・通学路周辺での見守り活動を呼びかける。 ・通学路の登下校時間帯での規制について働きかける。 ・小学校統合後の体制について検討する。	○	
	○生活支援推進会議 ・自治会長、福祉推進員、民生児童委員、運営委員による福祉懇談会の開催する。 ・定期的に福祉懇談会を開催し活動の具現化を協議する。	○	
	○くらしを支え合う活動・大江 ・生活支援「大江ん隊」の啓発と普及を図るためのサポーターを募る。 ・生活支援「大江ん隊」の充実を図るため、サポーターの集い、研修会を開催する。	△	
現状および今後の方針			
○事故無く1年間が終わり良かった。 ○体調不良の子が出た時の三者の対応について共通理解を図る。 ○7月からの「大江んバス」の運行は利用者に喜ばれている。行き先や増便を検討していく。			
重点課題		広報「地域住民に対する地区社協の認識度の向上」	
事業名	推進方法	評価	
地区社協の啓発活動事業	○地区社協の広報活動 ・自治会長を通して、「大江地区社協便り」の早期配布を依頼します。 ・地区社協の活動が住民に伝わるよう、文字を大きくし、読みやすく分かりやすい内容となるような紙面とし、カラー版を継続していく。 ・大江区内の公共施設、商店、作業所、福祉施設等へも広報誌を配布し、大江地区社協の活動を広く知ってもらおう。	○	
	○イベントや部会活動の広報活動 ・「大江地区社協便り」に掲載するため、部会員が協力し、撮影や関係者に取材する。 ・イベント開催の案内や参加者の募集を掲載する。 ・各部会の活動予定及び実施行事を掲載する。 ・各自治会活動・行事を掲載する。 ・健康づくりに関する情報を継続して掲載する。	○	
現状および今後の方針			
《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった			

令和6年度 大江地区福祉活動計画評価表

スローガン 感謝のこころでふれあう地域づくり		
重点課題 地域交流「地域住民間における交流する機会の拡充」		
事業名	推進方法	評価
三世代交流の促進事業	①大江地区 小運動会（秋）・餅つき三世代交流会（冬） ・より多くの地域の方にも足を運んでいただけるよう、周知活動する。 ・役割分担表をもとに、学校やPTAと連携する。 ・海津小学校との関わりを保ちながら、今年度以降継続して出来ることを追求する。	△
	②大江地区三世代交流グラウンドゴルフ等スポーツ大会（秋） ・自治会の協力（参加者の募集）を得て、三世代が集まる地域交流の場として開催する。 ・子どもたちの参加を図るための方策を講じていきたい。 ・「大江地区社協便り」などで、開催と参加者募集の案内を掲載する。 ・雨天となった場合の交流会を、屋内に変えて実施できる内容（競技種目など）を考えていきたい。	△
	③大江地区の広域なサロンを計画 ・いきいきふれあいサロンの普及啓発を目的に、年に1回70歳以上の高齢者を対象として、「まめでいりゃーす会」及び「ひとり暮らし高齢者のつどい（市社協助成事業）」を（夏or秋）開催します。 ・参加者全員がお互いに積極的に触れ合える環境づくりを行う。	○
現状および今後の方針		
・R6事業 さつまいも＋もちつき体験 ※さつまいも（燻炭器、マルチ購入を7年度予算に加える） ・R7事業 さつまいも＋もちつき＋小運動会（体験型イベント＝福祉関係のブースの設置等） ※年度当初に具体的な事業計画を立てる。 ・年に一度の『まめでいりゃーす会』『グラウンドゴルフ』を継続して開催していく。		
重点課題 防災「防災・減災に対する意識の高揚」		
事業名	推進方法	評価
防災意識の向上事業	①講演会等の開催 ・災害は身近にあるものだとし、防災意識と知識を高めるために開催する。 ・講演会の開催は、地域住民の集まる機会を捉えて開催する。 ・消防団と協力し開催する。 ・避難所運営ゲームを開催する。	○
	②災害対策 ・地区内における自主防災組織の設置について啓発する。 ・避難所（旧大江小学校 総合教育センター）の防災備蓄品を確認し、補充すべきものを確保及び要望する。	○
現状および今後の方針		
○講演会ではなく、参加型・体験型の講習会を今後も継続していく。特に、高齢化が進み、講習会の必要性を感じる。今後、一層参加者を増やす工夫をしていく必要がある。 ○消防団（大江地区）の参加を積極的に要請する。 ○体育館（避難所として活用）の空調設備の設置要望を市に出していく。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 大江地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域住民間における交流する機会の拡充
事業名	
三世代交流の促進事業	
地域の課題（背景）	
・大江地区の福祉施設の施設利用者にも参加できるような企画を考える。 ・地域ふれあい交流の促進のため「三世代グラウンドゴルフ大会」や「まめでいりゃーす会・ひとり暮らし高齢者のつどい」を引き続き実施していく。 ・地区内の子どもたちの減少が大きな課題である。 ・海津小学校が開校し2年目となる。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
○大江地区 小運動会（秋）・さつまいも（夏・秋）・餅つき三世代地域交流会（冬） ・より多くの地域の方にも足を運んでいただけるよう、周知活動を行う。 ・参加児童、保護者、地域住民と連携する。 ・海津小学校との関わりを保ち、昨年度に引き続き、出来る行事を継続する。 ○大江地区三世代交流グラウンドゴルフ等スポーツ大会（秋） ・参加者の募集等、自治会の協力を得て、三世代が集まる地域交流の場とする。 ・地区内外の子どもたちの参加を図るための方策を講じていく。 ・「大江地区社協便り」等で、開催と参加者募集の案内を掲載し周知する。 ・雨天となった場合の交流会を、実施可能な屋内種目を考えていく。 ○大江地区のサロンの計画 ・いきいきふれあいサロンの普及啓発を目的に、年に1回、70歳以上の高齢者を対象として、「まめでいりゃーす会」及び「ひとり暮らし高齢者のつどい事業」を実施する。 ・参加者全員が、互いにふれ合える環境づくりをする。	
自助(自分でできること)	
・イベントが行われる際には、地域住民に参加の呼びかけをする。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・高齢者のつどい事業拡充のため、助成金の増額を要望する。	

令和7年度 大江地区福祉活動計画

重 点 課 題	防災・減災に対する意識の高揚
事業名	
防災意識の向上事業	
地域の課題（背景）	
・ 地域住民の皆さんの防災・減災に対する関心の高さは年々大きくなってきている。 ・ 防災に関わる「講習会」などを継続して開催することは重要である。 ・ 何をすれば良いか、何に備えれば良いかなど、具体的な防災行動に迷う住民は多い。 ・ 大江地区では自主防災組織の編成が少ないため、災害対策として重要性を啓発していく。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
○講演会等の開催 ・ 災害は身近にあるものだとし、防災意識と知識を高めるために開催する。 ・ 講習会の開催は、地域住民の集まる機会を捉えて開催する。 ・ 消防団員の参加を得て実施する。 ・ 昨年度実施できなかった、防災備品等を活用した訓練を行う。 ○災害対策 ・ 地区内における自主防災活動情報を共有する。 ・ 避難所（大江体育館、海津市総合教育センター）の防災備蓄品を確認し、補充備品などを市に要望する。 ○広報誌による防災関連の情報を共有する。 ・ 防災意識と知識を高めるための最新情報を掲載する。 ・ 講習会の内容を記事などで紹介する。	
自助(自分でできること)	
・ 避難場所などや避難経路の確認 ・ 地域住民に対する防災意識の高揚を更に図るために、各地域住民にまで広げた防災訓練または、講習会を実施する。 ・ 備蓄品を確認し、備品などの充実を図るとともに、この備品を使つての実務訓練を行っていく。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・ 地域住民に対する防災意識の高揚を図るため積極的な働きかけをお願いする。 ・ 避難所運営ゲーム（HUGゲーム）を防災講演会などで実施をお願いする。 ・ 備蓄品の充実を図るよう依頼する。	

令和7年度 大江地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域住民に対する地区社協の認識度の向上
事業名	
地区社協の啓発活動事業	
地域の課題（背景）	
・地区社協便りを早めに全戸に配付することを依頼する。 ・啓発イベントへの参加者の増員を図る。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
○地区社協の広報活動 ・自治会長を通して、「大江地区社協便り」の早期配付を依頼する。 ・地区社協の活動が住民に伝わるよう、読みやすい内容になるような紙面とし、カラー版を継続する。 ・大江地区社協の事業などを広く知ってもらうため、地区の公共施設、商店、作業所、福祉施設、交番などへも広報誌を送付する。 ○イベントや部会活動の広報活動 ・「大江地区社協便り」に掲載するため、部会員が協力し、撮影や関係者に取材する。 ・イベント開催の案内や参加者の募集を掲載する。 ・各部会の活動予定及び実施行事を掲載する。 ・各自治会活動・行事などを掲載する。 ・健康づくりに関する情報を掲載する。 ・防災に関する最新情報などを掲載する。	
自助(自分でできること)	
・地域住民の参加を積極的に呼び掛ける。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・一層充実した事業運営のために、活動助成金の増額を要望する。	

5

西江地区

【スローガン】

西江の絆

～みんなでふれあう支えあう～



【海津地区の人口】

	海津市		海津地区	
	2008年 4月1日	2025年 4月1日	2008年 4月1日	2025年 4月1日
人口	39,321人	31,255人	14,431人	11,558人
対人口比	100.0%	100.0%	36.7%	37.0%
年少人口	5,187人	2,631人	1,901人	931人
年少率	13.2%	8.4%	13.2%	8.1%
高齢者人口	8,494人	11,487人	2,999人	4,205人
高齢化率	21.6%	36.8%	20.8%	36.4%
後期高齢者人口	4,077人	6,197人	1,446人	2,231人
後期高齢化率	10.4%	19.8%	10.0%	19.3%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【西江地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
西江体育館			

令和6年度 西江地区福祉活動計画評価表

スローガン	西江の絆～みんなでふれあう支え合う～
-------	--------------------

重点課題	地域での三世代間交流の機会の減少
------	------------------

事業名	推進方法	評価
三世代交流推進事業	○さつま芋の苗植え・収穫体験の実施 ・地域住民の畑を借り、子どもたちと地域住民の交流を深める目的で実施する。 ・5月に苗植え、10月に収穫体験を行う。草取りや水やりも育成会、部会員が協力して行う。また、中学生を中心に進めていくように検討する。 ・収穫後はみんなで分けあい、余った芋については市社協に一部寄付する。	○

現状および今後の方針
三世代交流部会の役員減少もあり、ものづくり体験は、予定しなかった。苗植え・収穫については予定どおり実施した。夏の猛暑により収穫量が少なく寄付は出来なかった。次年度、さつま芋の苗植え、収穫を実施予定。

重点課題	地域住民と子どもたちのふれあう機会が少ない
------	-----------------------

事業名	推進方法	評価
子どもを通じ、地域とのふれあい活動	①西江小学校の廃校により、海津小学校の対応が、もう少し具体的になっていなく、休部とする。	—
	②年末夜警の実施 ・12月26日～28日 夜8:00～9:00実施予定	○

現状および今後の方針
本年度は、海津小学校の方向性が判明せず、休部扱いで進んだが、年末夜警は実行しようと計画し、年末夜警は予定どおり実施ができた。参加人数は、延べ11人であった。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 西江地区福祉活動計画評価表

スローガン		西江の絆～みんなでふれあう支え合う～
重点課題		広域サロンの認知度を高め、イベント参加者を募る
事業名	推進方法	評価
西江地区ふれあい いきいきサロン事業	○西江地区ふれあいいきいきサロンの開催 ・自治会単位で開催しているサロンに働きかけ、計画の充実を図る。 ・サロンの内容を参加者が楽しめるよう検討していく。 ・広域サロン部会員としての自覚を持ち、協力意識を向上させる。 ・福祉推進委員の協力を得て、各自治会の高齢者へサロンの周知を行う。 ・部会員の協力体制が、出来上がりつつあり、意識向上を図る。	○
現状および今後の方針		
新型コロナウイルス感染症の影響等があり、本年度は毎月の開催ではなく、年6回（偶数月）の開催となった。福祉推進委員の協力により、参加への声かけ、サロン運営の協力や、アンケート調査結果に基づき内容も検討したことにより、無事計画どおり開催することができ、参加者に楽しんでいただくことができた。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 西江地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域住民と子どもたちのふれあう機会が少ない
事業名	
子どもを通じ地域とのふれあい活動	
地域の課題（背景）	
・行事では地域住民と子どもたちとの交流はあるが、普段の生活では十分な交流がない。 ・子どもの数が減少し、地域住民との交流の場の減少している。 ・地域住民と子どもの顔見知りを増やし、安心して暮らせる地域をつくる。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・当面 年末夜警の実施 12月26日～28日	
自助(自分でできること)	
・積極的な案内等により、参加者の増加を図る。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・海津小学校に西江地区の児童に、案内チラシの交付。	

令和7年度 西江地区福祉活動計画

重点課題

広域サロンの認知度を高め、イベント参加者を募る

事業名

西江地区ふれあいいきいきサロン事業

地域の課題（背景）

- ・ひとり暮らし高齢者や日中ひとりだけになる方の地域交流する場が少ない。
- ・地域住民の西江地区社協への関心が低い。
- ・サロン部会の活動の徹底と部会員の協力。

推進方法（地域でできることをより具体的に記入）

○西江地区ふれあいいきいきサロンの開催

- ・自治会単位で開催しているサロンに働きかけ、計画の充実を図る。
- ・サロンの内容を参加者が楽しめるよう検討していく。
- ・広域サロン部会員として自覚を持ち、協力意識を向上させる。
- ・福祉推進委員の協力を得て、各自治会の高齢者へサロンの周知を行う。

自助(自分でできること)

- ・参加者が楽しめる内容を考える。
- ・サロン部会会員を中心して、ご近所でサロンの呼びかけを行う。

公助（行政や社協に依頼すること）

令和7年度 西江地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域での三世代交流機会の減少
事業名	
三世代交流推進事業	
地域の課題（背景）	
・地域での世代間交流の機会の減少。 ・核家族化が進み、子どもたちと高齢者が接する機会の減少。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
○さつま芋の苗植え・収穫体験の実施 ・地域住民の畑を借り、子どもたちと地域住民の交流を深める目的で実施する。 ・5月に苗植え、10月に収穫体験を行う。草取りや水やりも育成会、部会員が協力して行う。 ・収穫後はみんなで分けあい、余った芋については市社協に一部寄付をする。	
自助(自分でできること)	
・事業への積極的な参加、呼びかけ。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

6

今尾地区

【スローガン】

助け合いの心で
地域の和（輪）を広げよう



【今尾地区の人口】

	海津市		今尾地区	
	2008年 4月1日	2025年 4月1日	2008年 4月1日	2025年 4月1日
人口	39,321人	31,255人	5,237人	4,112人
対人口比	100.0%	100.0%	13.3%	13.2%
年少人口	5,187人	2,631人	770人	382人
年少率	13.2%	8.4%	14.7%	9.3%
高齢者人口	8,494人	11,487人	1,114人	1,461人
高齢化率	21.6%	36.8%	21.3%	35.1%
後期高齢者人口	4,077人	6,197人	568人	737人
後期高齢化率	10.4%	19.8%	10.8%	17.9%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【今尾地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所平田支所	今尾コスモスこども園		稲田クリニック
海津消防署平田分署	ほっとハウス” こんたん家”		かわい整形外科
平田公園	デイサービスセンター千の郷	今尾小学校	辻中医院
海津市こども未来館 「ZüTTo」	グループホーム天の花	海津特別支援学校	今尾歯科医院
	デイサービス天の花		ホワイトオタリ歯科医院
SSドローンプラザ			吉田歯科
ふれあいセンター			
平田交番			
平田郵便局			

令和6年度 今尾地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合いの心で地域の和（輪）を広げよう
-------	---------------------

重点課題	地域の見守りについて
------	------------

事業名	推進方法	評価
地域の助け合い事業	- 交通安全啓発活動（ヨシツヤ、クレール平田、今尾小学校） - 児童の見守り活動 - 児童の連れ去り防止標語入看板設置 - 交通安全教室の開催…（今尾小学校児童） - 夏休み前、水難防止チラシ配布 - 年金支給月に啓発活動 - 振り込め詐欺防止対策講演会 - 介護保険についての講演会 - 災害など危機管理講演会 - ひとり暮らし高齢者防犯ブザーの確認 - 交通安全クイズ大会の実施（こんべいた運動会に協賛） - 部会の開催	○

現状及び今後の方針		
- 交通安全啓発活動においては、交通安全協会の活動と重なるので、今尾小学校の児童の見守りを中心に活動を行なうようにする。 - 地域交流の活動と協力し合って活動を進めていきたいと思う。		

重点課題	地域交流について
------	----------

事業名	推進方法	評価
地域の輪を広げる事業	- 三世代交流会 認知症予防講座と茶話会（6月8日 ふれあいセンター） みんなでラジオ体操&ビンゴ （8月3日 今尾小学校グラウンド） 三世代交流会、茶話会（11月） 部会の開催 - 地域懇談会 - 高齢者のつどい（11月）	○

現状及び今後の方針		
「みんなでラジオ体操」の開始時間を30分遅らせて7時から行ってみたが、6時半のイメージが強く6時半からの方が良いとの意見が多くあり次年度は、6時半開始とする。 11月に予定していた三世代交流は、行事が重なり1月に変更して実施したが、冬休みの終わりと平日ということで集まりが悪かった。次年度は、もう少し早い時期で土日に計画したいと思う。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 今尾地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域交流について
---------	----------

事業名
地域の輪を広げる事業

地域の課題（背景）
地域での集まりが少なくなる中で、集まりを楽しむ人達がそんな場を求めているので場所を提供して誰もが集まれるような会を開きたいと思います。

推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）
○三世代交流会 ・ 特殊詐欺の話と茶話会 ・ みんなでラジオ体操（夏休み6：30～ じゃんけん電車、紙飛行機とばし） ・ 防災の話（消防署）＆ビンゴ ○高齢者のつどい ○地域の集会場を利用して身近な集いの場を設ける ○部会開催

自助(自分でできること)
地域行事に積極的に参加し地域住民同士の交流を深める

公助（行政や社協に依頼すること）

令和7年度 今尾地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域の見守りについて
---------	------------

事業名
地域の助け合い事業

地域の課題（背景）
・子どもの数が減少してきているので、地域での見守りを大切にしていきたい。 ・いつ起きるかもしれない災害に対して自分たちでできることを意識づけすることが大切だと思う。 ・振り込め詐欺は手口を変えながら発生しているので啓発に努めたい。

推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）
・交通安全啓発活動 ・児童の見守り活動 ・児童連れ去り防止標語看板設置 ・交通安全教室に協力参加 ・夏休み前、水難防止チラシ配布 ・年金支給月に啓発活動 ・各種講演会 ・一人暮らし高齢者防犯ブザーの確認 ・交通安全クイズ大会の実施（こんぺいた運動会に協賛） ・部会の開催

自助(自分でできること)
・自分の身は自分で守る。 ・進んで活動に参加する。

公助（行政や社協に依頼すること）

7

海西地区

【スローガン】

地域のネットワークで
安心安全な海西



【海西地区の人口】

	海津市		海西地区	
	2008年 4月1日	2025年 4月1日	2008年 4月1日	2025年 4月1日
人口	39,321人	31,255人	2,981人	2,363人
対人口比	100.0%	100.0%	7.6%	7.6%
年少人口	5,187人	2,631人	390人	229人
年少率	13.2%	8.4%	13.1%	9.7%
高齢者人口	8,494人	11,487人	631人	849人
高齢化率	21.6%	36.8%	21.2%	35.9%
後期高齢者人口	4,077人	6,197人	312人	453人
後期高齢化率	10.4%	19.8%	10.5%	19.2%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【海西地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海西公民館	わかば海西こども園		榊原医院
クレール平田（道の駅）	地域密着型特別養護老人ホーム かいさいの華	海西小学校	寺倉医院
平田リバーサイドプラザ		平田中学校	
海西警察官駐在所	小規模多機能 かいさいの華		
海西郵便局			

令和6年度 海西地区福祉活動計画評価表

スローガン	地域のネットワークで安全安心な海西	
重点課題	弱者の危険からの回避 高齢者のコミュニティへの参加推進	
事業名	推進方法	評価
地域見守りネットワーク 推進事業	○子どもたちの見守りを行う。 ・安心して児童、生徒が登下校できるように、地域全体で見守り活動を行う。 ・各自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区社協役員を中心に、毎月第一登校日に通学路に立ち、安全を見守る。	○
	○高齢者の見守り活動を行う。 ・ひとり暮らし高齢者宅、高齢者世帯へふれあい訪問を実施する。	○
	○高齢者を囲む会を開催する。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力で、ひとり暮らし高齢者（70歳以上）、高齢者世帯（75歳以上）を対象に、海西地区「高齢者を囲む会」を実施する。	○
現状及び今後の方針		
①子どもたちの見守り活動 地区社協として毎月第一登校日に行う。各地区で海西小学校の児童の登校時の見守り活動を行った。今後も継続して活動していきたい。地域の方に児童の下校時の見守りも行ってもらえた。今後もこの活動は続けていきたい。 ②高齢者の見守り活動 ひとり暮らし高齢者宅にふれあい訪問をした。各地区の自治会長・民生委員児童委員・福祉推進委員でひとり暮らし高齢者宅・高齢者世帯を訪問し、感染症防止のマスク等を持参し、声かけを行った。 ③高齢者を囲む会の実施 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員等の協力で、ひとり暮らし高齢者(70歳以上)、高齢者世帯(75歳以上)を対象に、「海西地区高齢者を囲む会」を海西公民館で行った。参加して下さった高齢者の皆さんは、わかば海西こども園児との交流もできて楽しく過ごしてもらえた。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 海西地区福祉活動計画評価表

スローガン		地域のネットワークで安全安心な海西
重点課題		地域の交流の希薄
事業名	推進方法	評価
三世代交流の推進事業	○にこにこ子育て支援事業を推進する。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、子ども会との連携や三世代交流事業の活発化を図るため、にこにこ支援事業を活用して子どもから高齢者、障がい者まで幅広く交流が図れる行事などを行う。 ・海西地区三世代交流レクリエーション大会	○
	○サロン活動を推進する。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、いきいきクラブと連携しながら、閉じこもりがちなひとり暮らし高齢者や障がい者のみなさんが、気軽に地域交流ができるようサロン活動を推進する。また、サロン立ち上げの活動の支援(サロン活動未実施地区へのアドバイス)などを行う。	○
	○視察研修を行う。	○
現状及び今後の方針		
①にこにこ子育て支援事業の推進 三世代交流事業を行った。にこにこ子育て支援事業を活用して、子ども会、育成会と協力し、子どもから高齢者まで参加して海西小学校体育館で「レクリエーション大会」を行った。幅広く交流が図れた。		
②サロン活動の推進 広域サロンは、対象者の交通手段の確保が難しく、実施が見込めていない。		
③視察研修の実施 なごや福祉用具プラザにて福祉用具の見学・説明を聞き、名古屋大学減災館にて防災について学んだ。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 海西地区福祉活動計画評価表

スローガン		地域のネットワークで安全安心な海西
重点課題		各自治会の防災意識の欠如
事業名	推進方法	評価
防災意識(知識)向上及び 防災啓発の推進事業	○防災について研修会を行う。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区内在住 防災士などと協力して、消防署の職員や専門家を招いて防災に 対する知識や技術などを学ぶ。講座を充実し、専門的な話が聴 けるとよい。 ・地域住民自身が、災害をより身近なものであると認識し、危 機管理意識を高める。	○
	○防災対策 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区内在住 防災士、他団体と連携を図りながら、具体的な避難場所、防災 備品等の検討や危険個所の確認をする。	○
	○避難所運営訓練を行う。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、他団体と連携を図りな がら、避難所運営訓練を行う。	○
現状及び今後の方針		
自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員と協力して、防災の専門家を招いて避難所設営訓練を行なった。地域住民の一人一人が防災がより身近なものと認識し、危機管理意識を高めていくため研修を行なった。安定的な運営ができるようにメンバー構成を考えていく必要がある。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 海西地区福祉活動計画

重点課題	各自治会の防災意識の欠如
事業名	
防災意識(知識)向上及び防災啓発の推進事業	
地域の課題（背景）	
・災害に対しての意識、知識が乏しい。 ・各自治会において防災への意識が乏しいため、組織や連携ができていない。 ・災害時における避難場所の明確化と備蓄品等の充実が不十分である。 ・危険箇所がはっきりしていない。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○防災について研修会を行う。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区内在住防災士等と協力して、消防署の職員や防災の専門家を招いて防災に対する知識や技術などを学ぶ。講座を充実し、専門的な話が聴けるとよい。 ・地域住民自身が、防災がより身近なものであると認識し、危機管理意識を高める。 ○防災対策 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区内在住防災士、他団体と連携を図りながら、具体的な避難場所、防災備品等の検討や危険箇所の確認をする。 ○避難所運営訓練を行う。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区内在住防災士、他団体と連携を図りながら、避難所運営訓練を行う。	
自助(自分でできること)	
・自分自身の命を大切にする。 ・自治会行事に積極的に参加し、つながりを密にし、連携する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・海津市総務課危機管理室や防災士による研修への支援や訓練への指導・助言 ・消防署員による救急救命時の動きなどの指導と講習	

令和7年度 海西地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域交流の希薄
事業名	
三世代交流の推進事業	
地域の課題（背景）	
・ 少子化・高齢化や共働き家庭の増加で三世代で交流する機会が少なくなってきた。 ・ 海西8地区のかかわる機会が少ない。 ・ 各地区内での住人のつながりが希薄化している。 ・ 世代を超えた関わりが少ない。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○にこにこ子育て支援事業を推進する。 ・ 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、子ども会との連携や三世代交流事業の活性化を図るため、にこにこ支援事業を活用して、子どもから高齢者、障がい者まで幅広く交流が図れる行事などを行う。三世代交流レクリエーション大会 ○サロン活動を推進する。 ・ 各自治会役員、民生委員児童委員・福祉推進委員、いきいきクラブと連携しながら、閉じこもりがちなひとり暮らしの高齢者や障害者のみなさんが、気軽に地域交流ができるようにサロン活動を推進する。また、サロン立ち上げの活動の支援(サロン活動未実施地区へのアドバイス)などを行う。 ○視察研修を行う	
自助(自分でできること)	
・ 自分から進んであいさつをする。 ・ 地域行事に積極的に参加し、交流を図る。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・ 助成金、場所、物品等の協力、活動への助言	

令和7年度 海西地区福祉活動計画

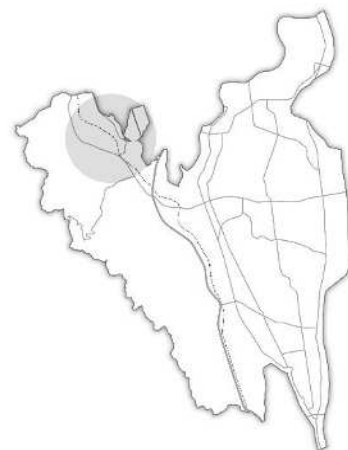
重 点 課 題	弱者の危険からの回避 高齢者のコミュニティへの参加推進
事業名	
地域見守りネットワーク推進事業	
地域の課題（背景）	
・高齢者の増加 ・近隣との関係の希薄化 ・海西地区全自治会長を中心にした事業活動の展開 ・子どもの安全な登下校を見守る体制の充実を図る。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○子どもたちの見守りを行う。 ・安心して児童生徒が登下校できるように、地域全体で見守り活動を行う。 ・各自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区社協役員を中心に、毎月第一登校日に通学路にたち、安全を見守る。 ○高齢者の見守り活動を行う。 ・ひとり暮らし高齢者宅・高齢者世帯へふれあい訪問をする。 ○高齢者を囲む会を開催する。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力で、ひとり暮らし高齢者（70歳以上）、高齢者世帯（75歳以上）を対象に、海西地区「高齢者を囲む会」を実施する。	
自助(自分でできること)	
・子どもたちや高齢者に積極的に声をかける。 ・ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への見守り	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・助成金、場所、物品等の協力、活動への助言	

8

下 多 度 地 区

【スローガン】

見守って 声掛けあって
地域の絆は 下多度から



【下多度地区の人口】

	海津市		下多度地区	
	2008年 4月1日	2025年 4月1日	2008年 4月1日	2025年 4月1日
人口	39,321人	31,255人	2,368人	1,887人
対人口比	100.0%	100.0%	6.0%	6.0%
年少人口	5,187人	2,631人	297人	140人
年少率	13.2%	8.4%	12.5%	7.4%
高齢者人口	8,494人	11,487人	604人	709人
高齢化率	21.6%	36.8%	25.5%	37.6%
後期高齢者人口	4,077人	6,197人	344人	407人
後期高齢化率	10.4%	19.8%	14.5%	21.6%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【下多度地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所下多度支所	やろまいか (就労移行支援) (就労継続支援B型)	下多度小学校	養南病院
海津市みかげの森 「プラザしもたど」			
北部コミュニティセンター	オレンジハイツ (グループホーム)		
下多度郵便局	特別養護老人ホーム 長寿の里・南濃		
	デイサービスセンター 長寿の里・南濃		
	いっぶくの郷 春藤園 (デイサービス) (有料老人ホーム)		

令和6年度 下多度地区福祉活動計画評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
-------	-------------------------

重点課題	子どもたちの安全・安心な登下校環境の確保
------	----------------------

事業名	推進方法	評価
通学路安全確保事業	・下多度小学校、PTAなどと協力し、通学路の安全点検を継続し、通学路の安全確保を図る。 ・スクールガードボランティアによる、下校時の見守り活動を継続する。 第1・第3水曜日を基準に、下多度小学校と調整して、月2回実施する。	○

現状及び今後の方針

一部の方が毎日のように登下校の見守り活動をしていただいていたが、5月の部会で校長先生から毎日の下校時の見守り要請があり、協力できる方は毎日活動することとした。
10月、岐阜県安全・安心まちづくり賞 安全・安心まちづくりボランティアの部として、下小スクールガードボランティアが県知事表彰を受賞した。
地道な活動ではあるが、今後も継続していかねばならない活動として、事業を継続したい。

重点課題	自然や地域を生かした子どもの遊ぶ機会の創造
------	-----------------------

事業名	推進方法	評価
子どもの活動を豊かにする事業	・地域の小学校、子ども育成会と協力して、多くの子どもや父母に参加してもらい、講師を招いて地域の歴史の学習や、自然の素晴らしさを感じてもらいたい。 ① 外来魚の駆除事業と生態系の勉強会の実施 ② お寺での歴史の勉強会と縁日 ・地域で活躍している団体や個人にも協力していただき、事業を展開する。	○

現状及び今後の方針

天候により開催ができない事もあり、室内での事業も展開していく

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 下多度地区福祉活動計画評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
-------	-------------------------

重点課題	高齢者の買い物や通院の手段がない
------	------------------

事業名	推進方法	評価
高齢者移送サービス事業	・従来から進めている高齢者移送サービス事業を、協力会員の無理のない範囲で継続実施する。 ・引き続き協力会員の募集を行う。 ・スマートフォンを活用して協力会員相互の連携を図り、負荷の平準化を図る。 ・デマンドバスの活用や、近親者による送迎を優先するよう、利用会員に要請する。 ・福祉目的から逸脱しない利用を、利用会員に要請する。 ・移送サービス事業への積極的な参加を、自治会、民生委員児童委員等に要請する。	○

現状及び今後の方針

- ・令和7年2月現在、利用会員は27名、協力会員は新規登録の2名があるも4名と不足状態が続いている。
- ・協力会員の負荷減少を目的として、節度ある利用を要請するため「送迎サービス利用会員様へのごお願い」と題する文書を、利用会員に配布した。

重点課題	高齢者の生活支援ニーズが多岐にわたり拡大している
------	--------------------------

事業名	推進方法	評価
生活支援「ちょこっとお手伝い」事業	介護の資格がなくてもできる「ちょこっとお手伝い」で、高齢者に寄り添う生活支援を行う。	○

現状及び今後の方針

- ・依頼内容は、草刈りと庭木の手入れに集中している。
- ・民生委員児童委員の見守り対象の住民に対して、ゴミ出しなど、ちょっとした困りごとがあれば、支援要請につながるよう広報活動が必要と考える。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 下多度地区福祉活動計画評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
-------	-------------------------

重点課題	防災意識の高揚と、各家庭の備えの強化
------	--------------------

事業名	推進方法	評価
啓発活動による防災意識の高揚と、各家庭の備えの強化	○啓発活動の推進 ・防災かわら版 → 2ヶ月に1回発行 ・防災ポスター → 9月に更新 ・研修会の開催 ○自主防災組織への働きかけと提案 ○避難所の開設、運営方法の勉強会	○

現状及び今後の方針		
・防災ポスターは9月と1月に更新した。ポスターを入れるパックシートも一部破損で2か所交換した。 ・令和6年12月12日の村岡治道先生の「事前の備えと事前の共助」(海津市自治連合会主催)を受講し、我々の活動の妥当性を確認できた。 ・今後の方針：自治会と「重点課題」の共有と協働を図るため、自治会に対し働きかけと提案を行っていきたい。		

重点課題	高齢者の交流機会が少ない
------	--------------

事業名	推進方法	評価
しもたどサロンの開催	・下多度地区全体を対象とする「しもたどサロン」を開催する。(時期未定) ・地域の多くの高齢者の集いの場となるように、「ひとり暮らし高齢者の集い」を兼ねて実施する。 ・自治会区域で行われているサロンを通じて、広く呼びかけを行う。 ・新型コロナウイルス感染症は、第5類に変更後も一定の感染が見られる。令和6年度も慎重に判断しながら、早めに関催の判断をしていく。 ・高齢者が感染した場合、重症化することが多いことから予防のためマスクの着用、手指の消毒等、リスクを極力少なくできるよう対策を講じて実施する。 ・食事に関しては、持ち帰り等、検討をしていく。 ・リーフレットを作成し、サロン等、参加の呼びかけを行う。 ・他地区のボランティア活動の内容を参考にする。	○

現状及び今後の方針		
○部会自体が「広域サロン部会」であるので、方向性ははっきりしている。より多くの方に参加してもらえるように工夫をしていく。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 下多度地区福祉活動計画評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
-------	-------------------------

重点課題	①住民同士の交流機会が少ない ②高齢者の交流する機会が減少している
------	--------------------------------------

事業名	推進方法	評価
しもたどフェスティバル開催事業（協働開催）	1) 地域交流会の開催 : 「しもたどフェスティバル」の開催 2) 開催日 : 令和6年8月14日（水）に開催を計画 3) 会 場 : プラザしもたど（駐車場前面＋コミュニティーセンター含む全館） 4) しもたどフェスティバル実行委員会に加盟し、新型コロナウイルス感染対策も含めた部会活動を実施する。 ①「ぬり絵・射的・ストラックアウト・輪投げ」等を企画して実施する。 ② 新規イベントを企画して実施する。 5) 自治会・中学校・小学校等に周知して、協力を要請する。 6) 中学生・小学生等、各種団体や個人に参加を募る。 7) 新型コロナウイルス感染症防止対策を、海津市・自治会・実行委員会等の関係者と相談して実施する。 8) 真夏の開催で最近の危険な暑さであり、スタッフ・参加者年齢を考慮した対策を考慮して実施する。 9) しもたどフェスティバル実行委員会に計画を提案し、実行委員会に加わって活動する。 10) 地域の住民と共に、常に新たな企画を検討して、積極的に取り組んで行く。	○

現状及び今後の方針
・ぬり絵参加者で、下多度小学校児童だけでなく、近隣小学生の参加や中学生の参加が増加した。 ・ぬり絵・ストラックアウト・射的・輪投げ・スポーツ吹矢の5種の他に幼児用遊具室が開設できた。 ・前回の参加者の景品取得の偏りを種目別に景品分割し、偏り減少させることが出来たと思われる。 ・協力中学生のイベント担当において、ローテーション等を検討する。 ・後期高齢者の参加が多くあり、新企画を検討したい。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題

子どもたちの安全・安心な登下校環境の確保

事業名

通学路安全確保事業

地域の課題（背景）

- ・少子化の進行に伴い児童数も少なく、下校時も目立たないことから、交通事故が懸念される。
- ・不審者による中学生以下の子どもに対する声掛け事案が、県内で年間500件以上発生。県下での発生状況の特徴から、下校時見守りの大切さがうかがえる。
女子に対するもの64% 路上での発生85%
登下校時間帯に集中77%（下校時は登校時の2.8倍）

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】

- ・下多度小学校、PTAなどと協力し、通学路の安全点検を継続するとともに、通学児童の見守り活動を行い、安全・安心を確保する。
- ・スクールガードボランティアによる下校時の見守りを継続する。
見守りは、できる人ができる範囲で、登校日に実施する。
原則として毎月第1・第3水曜日を、重点活動日として活動する。
重点活動日は、下多度小学校と調整して決定する。

自助(自分でできること)

- ・地域住民が、児童を見かけたら登下校時のみならず声掛けと、挨拶活動を行う。

公助（行政や社協に依頼すること）

- ・駐在所もなくなり防犯面で不安、パトロールカーなどにより地域の巡回を希望する。

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもたちの集う機会の創出
事業名	
子どもの活動を豊かにする事業	
地域の課題（背景）	
- 人口減少、とりわけ児童の人数は急速に減り続けている。 - 子どもたちの戸外での遊ぶ機会が少なく、地域住民との交流する機会がほとんどない。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
- 子ども 保護者 子ども会 学校と連携し、楽しい遊びを通じて地域の良さを再確認してもらう。 - 講師を招き生物の多様性を勉強し、外来魚の駆除事業をする。 - だんだん公園キャンプ場でバーベキューと星空観察会を実施する。 - お寺を利用した地元歴史の勉強会と縁日を実施する。	
自助(自分でできること)	
学校、子ども会と連携して事業を展開し、多くの児童の参加を呼びかけを行う。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
事業のPR、助言をお願いしたい。	

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題	通院や買い物等、外出手段のない高齢者の支援
事業名	
高齢者移送サービス事業	
地域の課題（背景）	
下多度地区は、医院、商店、金融機関、駐在所などが次々に姿を消し、コミュニティバスもないため外出手段がなく、通院や買い物に困窮する高齢者が多い。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
・ 高齢者のセーフティネットとして、高齢者送迎サービス事業を継続実施する。 ・ 継続して、協力会員の募集を行う。 ・ 協力会員の負担軽減のため、適宜利用会員に対して節度ある利用の呼びかけをする。 オンデマンドバスの活用 親族や知り合いへの応援要請 養老鉄道の利用 特定ボランティアへの集中回避 など	
自助(自分でできること)	
・ 親族に応援を依頼する。 ・ 市内は、オンデマンドバスを利用する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・ オンデマンドバスの活用推進（利用実態の紹介や利用しやすい裏技など）	

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者の、ちょっとした困りごとへの支援
----------------	---------------------

事業名
「ちょこっとお手伝い」事業

地域の課題（背景）
・高齢化の進展と共に、生活全般にわたり支障をきたす場面が多くなると思われる。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】
・高齢化に伴い、お年寄りが自分でできなくなった作業を支援する。 【対象】 民生委員の見守り対象世帯とする。 1時間程度でできる比較的簡単な作業 ・依頼内容は草刈り、庭木の手入れに集中している。 他にも困りごとがあると思われるため、民生委員を通じてリーフレット等で、隠れたニーズの顕在化と利用を促進する。

自助(自分でできること)
・ゴミ出し等、ほんのちょっとした手助けは、お隣などご近所の住民パワーを活用する。

公助（行政や社協に依頼すること）
・従来通り、年1回の民生委員との巡回の機会に、事業の紹介をお願いします。

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題	①住民同士の交流機会が少ない ②高齢者の交流する機会が減少している
事業名	
しもたどフェスティバル開催事業（協働開催）	
地域の課題（背景）	
1) 自治会単位の交流事業は実施しているが、一段と減少して地区全体の交流の場を創る事がより一層必要と思われる。 2) 子どもをはじめ、各年代が一堂に会して集まる機会や顔を合わせる機会がないと思われる。 3) 地域全体で集まり、会話し、笑い楽しみ、顔見知りになる事で、地域交流が深くなると考えている。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
1) 地域交流会の開催 ： 『しもたどフェスティバル』の開催 2) 開催日 ： 令和7年8月14日（木曜日）に開催を計画 3) 会 場 ： プラザしもたど（駐車場全面 + 南濃コミュニティーセンター含む全館） 4) しもたどフェスティバル実行委員会に加わり、部会の活動を実施する。 ①『ぬり絵・射的・ストラックアウト・輪投げ・スポーツ吹矢』等を企画して実施する。 ②新規イベントを企画検討する。 5) 自治会・中学校・小学校等に周知して、協力を要請する。 6) 中学生・小学生等、各種団体・個人へ、参加を募る。 7) 各種感染症防止対策を、海津市・自治会・実行委員会等の関係者と相談して実施する。 8) 真夏の開催で最近の危険な暑さのため、スタッフ・参加者年齢を考慮した暑さ対策を検討して実施する。	
自助(自分でできること)	
1) しもたどフェスティバル実行委員会に計画立案を提案し、実行委員会に加わって活動する。 2) 地域の皆さんと共に、常に新たな企画を検討して、積極的に取り組む。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
1) 下多度自治会をはじめ、中・小学校等へ協力をお願いして参加を募る。 2) 開催についての後援・場所の許可・広域広報等の協力を、海津市・教育委員会・市社会福祉協議会等へ願います。	

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重点課題

防災意識の高揚と、各家庭の備えの強化

事業名

啓発活動による防災意識の高揚と、各家庭の備えの強化

地域の課題（背景）

- ・南海トラフ大地震の防災対策推進指定区域内にあり、大規模災害が危惧される。
- ・養老山地の東裾野の扇状地にあるため、集中豪雨や台風による土石流が懸念される。
- ・以上の危惧や懸念に対し、防災意識や各家庭における備えが不十分である。

令和4年2月に実施した防災アンケートの結果

(防災意識や各家庭の備えに関する大半の項目が、100点満点の10点台～30点台と極めて不十分な値であった)

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】

○自主防災組織への働きかけと提案

○啓発活動の推進

- ・防災かわら版 → 2か月に1回発行
- ・防災ポスター → 3か月毎に更新
- ・研修会の開催

○避難所の開設、運営方法の勉強会

自助(自分でできること)

- ・「自分の身は自分で守る」→ 地域住民自身による「事前の備え」
- ・「事前の備え」= (家屋耐震化、家具転倒防止、ガラス飛散防止、感震ブレーカー設置、備蓄)

公助（行政や社協に依頼すること）

- ① 住民に対する「事前の備え」の啓発
- ② 自治会に対する「事前の共助」の推進
「事前の共助」とは、自治会による「事前の備え」の啓発・促進・支援活動

令和7年度 下多度地区福祉活動計画

重点課題

高齢者の交流機会が少ない

事業名

広域サロンの開催

地域の課題（背景）

- ・各自治会区域で行われているサロンも、すべての自治会で行われているわけではない。
- ・各自治会区域で行われているサロン間の交流がない。
- ・現在行われているサロンでも参加者が減少傾向にある。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】

- ・下多度地区全体を対象にする「しもたどサロン」を開催する。
- ・地域の多くの高齢者の集いの場になるよう「ひとり暮らし高齢者の集い」を兼ねて開催する。
- ・自治会長会や、自治会区域で行われているサロンを通じて、参加の呼びかけを行う。
- ・お弁当を用意し、皆で会食ができるようにする。
- ・出し物は、昨年のように参加型の取り組みを検討していく。
- ・リーフレットをつくり、自治会毎に集約をお願いするとともに、地域のサロンでも参加を呼びかけをお願いする。
- ・自治会との連携もしっかりと取り、内容等も相談できるようにしていくことを検討する。
- ・他地区の活動を参考にする。

自助(自分でできること)

- ・自分の知り合いに参加を呼び掛けて貰う。

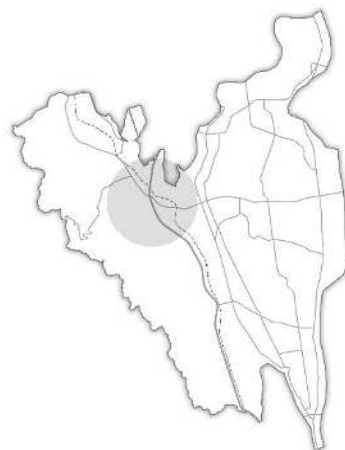
公助（行政や社協に依頼すること）

- ・市社協には、他地域の活動などを参考に助言をお願いする。

9

城 山 地 区

【スローガン】

心ふれあう城山のまち
あなたの笑顔が私の幸せ

【城山地区の人口】

	海津市		城山地区	
	2008年 4月1日	2025年 4月1日	2008年 4月1日	2025年 4月1日
人口	39,321人	31,255人	6,219人	4,903人
対人口比	100.0%	100.0%	15.8%	15.7%
年少人口	5,187人	2,631人	776人	470人
年少率	13.2%	8.4%	12.5%	9.6%
高齢者人口	8,494人	11,487人	1,451人	1,803人
高齢化率	21.6%	36.8%	23.3%	36.8%
後期高齢者人口	4,077人	6,197人	704人	942人
後期高齢化率	10.4%	19.8%	11.3%	19.2%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【城山地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所城山支所	認定こども園庭田保育園		伊藤内科・神経科
月見の里南濃（道の駅）	こまの認定こども園		ひばりクリニック
南濃総合福祉会館ゆとりの森	アグリピア農場 （就労移行支援） （就労継続支援B型）	城山小学校	田中歯科クリニック
羽根谷だんだん公園（さぼう遊学館）		城南中学校	中野歯科
南濃中部防災 コミュニティーセンター	オレンジ・ガーデン （デイサービス） （有料老人ホーム）		
南濃交番	デイサービス輝		
南濃温泉「水晶の湯」	有料老人ホーム輝		
海津市まちづくり協働センター	有料老人ホーム輝イースト		

令和6年度 城山地区福祉活動計画評価表

スローガン	心ふれあう城山のまち あなたの笑顔が私の幸せ
-------	------------------------

重点課題	安全は城山地区住民の意識から（安全委員会）
------	-----------------------

事業名	推進方法	評価
子どもの見守りと、住民の防災意識の向上	登下校時の見守りパトロールをする。 （老人クラブ、PTAと共に）	○
	子ども110番の家の見直しと、協力依頼をする。 （区長、自治会長、PTAと共に）	○
	災害時の安否確認のため、自治会防災調査票（9区・16自治会）の調査・保管の確認をお願いする。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に） ア. 災害時の安否確認調査票 イ. 災害被害調査 ウ. 被害状況報告書	△
	災害に対する防災避難知識の講習会を開催する。 ・城山小学校体育館避難所開設訓練	○

現状および今後の方針
・現状としては、交通安全指導やPTA（スクールボランティア）のほか有志の方が通学路に立ち、見守り活動を行っています。 ・こども110番の家を学校と相談して、今後も見直しをする。 ・今年は、城山小学校4年生児童と一緒に避難所開設訓練を行いました。来年度も今年度と同様に、避難所開設訓練で小学生を巻き込んだ訓練を実施したいと思います。

重点課題	高齢者への多様な支援が必要である（福祉委員会）
------	-------------------------

事業名	推進方法	評価
高齢者支援サポート事業の推進	ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への声かけや見守りをする。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に）	○
	ひとり暮らし高齢者のつどいを実施する。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、日赤奉仕団と共に）	○
	高齢者の城山生活サポート事業を推進する。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、城山生活サポーターと共に）	○
	いきいきサロンの設立を進める。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に）	○

現状および今後の方針
・ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への声かけや見守りが、民生委員児童委員・福祉推進委員・市社協職員の方々等の協力で行われている。 ・ひとり暮らし高齢者のつどいの参加者数が福祉委員の必死のお誘いにもかかわらず増えない。 ・高齢者の小さな困りごとを支援する城山生活サポーター事業は順調に件数を伸ばしているが、サポーターの高齢化により離脱者が多くなり今後の課題となる。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 城山地区福祉活動計画評価表

スローガン	心ふれあう城山のまち あなたの笑顔が私の幸せ
-------	------------------------

重点課題	住民の健康づくり、地域交流の場づくりが必要である（体育委員会）
------	---------------------------------

事業名	推進方法	評価
住民の健康づくりと、スポーツレクリエーション大会の運営	子どもと共に楽しめる行事としてスポーツレクリエーション大会を実施する。 （スポーツクラブ、体育推進員、各種体育指導者と共に）	○
	三世代交流の「三世代なかよし玉入れ」を小学校運動会で実施する。 （区長、自治会長、PTA、小学校と共に）	○
	城山地区夏まつりの開催に合わせ、スポレクイベントで参加する。	○

現状および今後の方針	
・昨年に引き続きスポレク大会を開催し、中学生ボランティア16名を含め、約130名の参加を得て6種類のゲームを行い、盛大に実施できた。 ・三世代交流事業は、「公園学習」を実施し、城山小学校1・2年生65名とともに「だんだん公園」でゲームを行い交流を深めた。 ・「城山の夏祭り」においては中学生ボランティアとともにレクリエーションゲームを行い、盛大に開催することができた。	

重点課題	青少年の健全育成が大切である（青少年委員会）
------	------------------------

事業名	推進方法	評価
青少年の健全育成	中学生ボランティアを募集し、共に活動する。（夏祭り、スポレク）	○
	独自の活動を行う。（わくわくチャレンジ親子史跡巡り）	○
	小・中学校との連携を深め、活動を支援する。	△
	様々な教育情報を収集し、今後の活動のあり方を検討する。	△

現状および今後の方針	
・小中学校への働きかけで。「わくわくチャレンジ親子史跡巡り」の実施や「城山の夏祭りやスポレク大会の中学生ボランティアの募集」を行うことができた。次年度も同様の活動を計画していきたい。 ・故郷の魅力を再発見する活動内容を見つけ、地域の子どもたちに提案していきたい。	

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 城山地区福祉活動計画評価表

スローガン	心ふれあう城山のまち あなたの笑顔が私の幸せ
-------	------------------------

重点課題	城山住民の地域交流の場が少ない（地域振興委員会）
------	--------------------------

事業名	推進方法	評価
地域交流活動の推進	城山の夏まつりを開催する。 （区長、自治会長、各種団体長と共に）	○
	城山の夏まつりへの協力を呼びかける。	○
	各種地域行事やまつり等の成功に向けて研修する。 （区長、自治会長と共に）	○

現状および今後の方針
第9回城山の夏まつりは、地元保育園児、城南中学2年生による新体操の演技他、各種イベントを実施しました。更には中学生ボランティアの協力のもと、ゴミの回収・飲み物サービスコーナー・ゲームコーナーの設置他、キッチンカー5台による食べ物の販売により1,200人からの地元市民の方々が来場されました。今後については、文化会館閉鎖に伴い、開催場所の旧南濃庁舎駐車場については海津市から従来通り使用して良いと許可を得ているものの、トイレ・電源等の確保については重要案件であるものの、来年度も地域交流の場として、盛大に実施したい。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	安全は城山地区住民の意識から（安全委員会）
事業名	
子どもの見守りと、住民の防災意識の向上	
地域の課題（背景）	
・通学路の安全面で心配なことが多くみられる。 ・交通安全や不審者対策などで、見守りボランティア活動が不足している。 ・災害時の安否確認のため、自治会ごとで名簿の準備が必要である。 ・多様な災害に対する防災避難知識の講習会の開催が必要である。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①登下校時の見守りパトロールをする。 （いきいきクラブ海津、保護者と共に） ②子ども１１０番の家の見直しと、協力依頼をする。 （区長、自治会長、保護者と共に） ③災害時の安否確認のため、自治会防災調査票（９区・１６自治会）の調査・保管の確認をお願いします。（区長又は自治会長） ア．災害時の安否確認調査票 イ．災害被害調査 ウ．被害状況報告書 ④災害に対する防災避難知識の講習会を開催する。 ・城山小学校体育館避難所開設訓練（城山小学校児童及び地元住民と共に）	
自助(自分でできること)	
・登下校時の見守りパトロールに協力する。 ・子ども１１０番の家の場所を再度確認をする。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・子ども１１０番の家への更新手続きを依頼する。（申請・認定・看板）	

令和7年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者への多様な支援が必要である (福祉委員会)
事業名	
高齢者支援サポート事業の推進	
地域の課題（背景）	
・ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯が増えてきている。 ・高齢者の方で日常生活の困りごとが増えてきている。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への声かけや見守りをする。 (区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に) ②ひとり暮らし高齢者のつどいを実施する。 (区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、日赤奉仕団と共に) ③高齢者の城山生活サポート事業を推進する。 (区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、城山生活サポーターと共に) ④いきいきサロンの設立を進める。 (区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に)	
自助(自分でできること)	
・近所の高齢者に対し、見守りや声かけをする。 ・近所の高齢者に小さな手助けをする。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・認知症対策支援	

令和7年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	住民の健康づくり、地域交流の場づくりが必要である (体育委員会)
---------	-------------------------------------

事業名
住民の健康づくりと、スポーツレクリエーション大会の運営

地域の課題（背景）
・住民の健康づくりの機会が少ない。 ・子どもと共に楽しめる行事がない。 ・城山地区住民運動会がなくて、さびしい。 ・昨今、人と人の繋がりが疎遠である。（人と人の接点づくり）

推進方法（地域でできることをより具体的に記入）
①子どもと共に楽しめる行事としてスポーツレクリエーション大会を実施する。 （スポーツクラブ、体育推進員、各種体育指導者と共に） ②三世代交流の「公園学習」をだんだん公園で実施する。 （区長、自治会長、PTA、小学校と共に） ③城山地区夏まつりの開催に合わせ、スポレクイベントで参加する。

自助(自分でできること)
・健康づくりの活動に進んで参加する。

公助（行政や社協に依頼すること）
・レクリエーション用具の借用

令和7年度 城山地区福祉活動計画

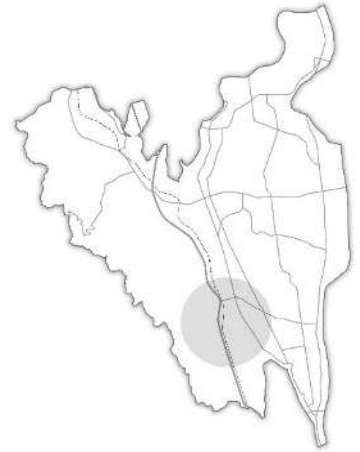
重 点 課 題	青少年の健全育成が大切である (青少年委員会)
事業名	
青少年の健全育成	
地域の課題（背景）	
・地域の活動に子どもの積極的な参加を呼びかける。 ・学校などと連携を図り、小中学生の健全育成を図る。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・中学生ボランティアを募集し、共に活動する。（夏祭り、スポレク） ・独自の活動を行う。（わくわくチャレンジ親子史跡巡り） ・小・中学校との連携を深め、活動を支援する。 ・様々な教育情報を収集し、今後の活動のあり方を検討する。	
自助(自分でできること)	
・多様な活動を通して子どもたちの参加を呼び掛け、子どもたちの健全育成を支援する。 ・地域の子どものに積極的に声をかける。（あったか言葉、挨拶など）	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・行政、学校、こども園などと連携を図る。	

令和7年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	城山住民の地域交流の場が少ない (地域振興委員会)
事業名	
地域交流活動の推進	
地域の課題（背景）	
・城山地区全体での地域交流活動が活発になってきているが、更に充実したものにしていきたい。 ・区や自治会ごとの行事や三世代交流の場がさらに増えるとよい。 ・城山地区夏まつりを実施するにあたって協力者をもっと増やしたい。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①城山の夏まつりを開催する。（区長、自治会長、各種団体長と共に） ②城山の夏まつりへの協力を呼びかける。 ③各種地域行事やまつり等の成功に向けて研修をする。 （区長、自治会長と共に）	
自助(自分でできること)	
・地域の交流活動に進んで参加する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

【スローガン】

助け合い支えあう石津地区



【石津地区の人口】

	海津市		石津地区	
	2008年 4月1日	2025年 4月1日	2008年 4月1日	2025年 4月1日
人口	39,321人	31,255人	8,085人	6,432人
対人口比	100.0%	100.0%	20.6%	20.6%
年少人口	5,187人	2,631人	1,053人	479人
年少率	13.2%	8.4%	13.0%	7.4%
高齢者人口	8,494人	11,487人	1,695人	2,476人
高齢化率	21.6%	36.8%	21.0%	38.5%
後期高齢者人口	4,077人	6,197人	703人	1,427人
後期高齢化率	10.4%	19.8%	8.7%	22.2%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【石津地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所石津支所	石津認定こども園		可知医院
海津市消防署南濃分署	認定こども園石山保育園		大井耳鼻咽喉科
働く女性の家	クローバー (就労継続支援B型)	石津小学校	やまだ眼科クリニック
南濃地域防災センター			中尾皮フ科クリニック
	地域密着型特別養護老人ホーム 長寿の里・海津		野村クリニック
			森木医院
	デイサービスいろは		石川歯科
	まりすりハビリセンター		木村歯科医院
	香和ショートステイ		曽根歯科医院
	デイサービスよもぎ		南濃歯科
	ショートステイよもぎ		
	グループホーム南濃「福寿苑」		
	石津地区社協事務所		

令和6年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合い支え合う石津地区
-------	--------------

重点課題	高齢者の移動手段の確保
------	-------------

事業名	推進方法	評価
高齢者移動サービス	・ボランティアの協力を得て、車両を使って送迎する。 ・ボランティアの高齢化が進んでいるので、世代交代を進める。 ・関係団体と連携したり、個別折衝などでボランティアの発掘を行う。 ・サービス利用者受入時のルールの整備を図る。	○

現状及び今後の方針		
・ボランティアの高齢化が進み体調不良となり、ボランティアの確保が課題である。 ・関係団体と連携及び個人折衝でボランティアの確保に努める。 ・年度末の利用登録者113名。実施日数238日、利用数676回。 ・利用者の高齢化による課題が顕在化しており、個別の対応を検討する必要がある。 ・受付ボランティアと運転ボランティアの連携、情報共有が必要である。 ・サービス利用者の個別の課題について、役員間で共有し、対策を講じた。		

重点課題	高齢者の憩いの場の提供
------	-------------

事業名	推進方法	評価
石津地区サロン運営事業	・毎月第4金曜日に定期開催。 ・参加者増員に向け、「地区社協だより」、関係団体、個別連絡など幅広い周知。 ・併設する「朝市」の出品内容に充実。 ・他地域（市内・市外問わず）のサロン運営の視察するなど、運営の改善を図る。	○

現状及び今後の方針		
・毎月定期開催の周知のため、「地区社協だより」によるPRを行った。 ・朝市の内容充実のため、役員だけでなく地域の人に幅広く声掛けを行った。 ・運営改善に向けて視察はできなかったが、役員間での検討を重ね、参加者の増員ができた。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合い支え合う石津地区
-------	--------------

重点課題	地域コミュニティの核である小学校との連携
------	----------------------

事業名	推進方法	評価
世代間交流推進事業	①米づくり体験活動（石津小学校の行事に協力） ・ 境自治会、農業ボランティアと協力し、地区社協の有志も活動に参加する。	○
	②さつま芋作り体験活動 ・ 田鶴地区の農業ボランティアの指導で、地区の認定こども園（2園）の年長組園児と石津小学校1年生児童がさつま芋作り体験活動（苗植え、芋掘り、焼き芋パーティー）を行うのに、地区社協の有志も参加する。	○
	③福祉標語の募集 ・ 石津小学校の6年生を対象に、福祉に関する標語を募集する。 ・ 優秀作品（12点）を表彰し、石津地区社協だよりに掲載する。	○
	④「コミュニティースクール」に参加し、地域の活動として取り組む。	○

現状及び今後の方針
・ 計画通りに実施ができた ・ ボランティアの高齢化に伴い、実施方法の検討が必要。

重点課題	地区社協の活動を広く周知する
------	----------------

事業名	推進方法	評価
「地区社協だより」の発行	・ 2ヶ月に1回、「石津地区社協だより」を発行する。 ・ 編集体制を確立し、読みやすく親しみやすい紙面づくりを行う	○

現状及び今後の方針
・ 2ヶ月に1回、「石津地区社協だより」を発行。自治会に回覧するほか、コンビニに設置し幅広く周知した。 ・ 「石津地区社協だより」の第100号記念とし、地区社協朝日会長と市社協森会長の対談を企画し、特別号として発行した。また、避難所体験も特集記事とした。 ・ 地区社協の活動を周知するとともに、読みやすく、見やすい紙面にするために検討を重ねた。 ・ 協賛事業を募り、財源を確保していく必要がある。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和6年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合い支え合う石津地区
-------	--------------

重点課題	子どもからお年寄りまで安心・安全暮らせる地域づくり
------	---------------------------

事業名	推進方法	評価
①スクールボランティア	- 自治会や関係機関と連携し、人材確保を図る。 - 学校と協力し、児童の交通事故防止や地域の安全対策への意識の向上を図る。	○
②防犯パトロール、青色パトロール	- 青色防犯パトロールの実施により、安全対策を行っている地域であることのアピールをする。 - 高齢者等の行方不明者の捜索やごみの不法投棄のパトロールなど、行政や警察との協力関係を構築する。 - 区や自治会と連携し、新たなボランティアの増員を図る。	○
③防災	- 防災士と連携し、必要と思われる啓発活動を計画する。 区、自治会に呼び掛け、具体的な活動につなげる。	○

現状及び今後の方針
①スクールボランティア - 学校、PTAと連携し、登下校時の見守りを継続した。 - 小学校発行の「みかんの里」をボランティアへ配布し、学校との連携、情報共有を行った。 区、自治会と連携し、新しい人材確保を図った。 ②防犯パトロール、青色防犯パトロール - ボランティアの確保に努め、パトロールの回数の維持を図った。 - 行方不明者の捜索、ごみの不法投棄の発見の協力を継続した。 - 小学校や警察の事業に積極的に参加し、連携および情報共有に努めた。 ③防災 - 令和6年12月1日に避難体験実施。 - 防災士会、赤十字会、消防団、区、自治会や行政と連携し、能登半島地震の経験などの学習会を行った。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者の移動手段の確保
---------	-------------

事業名
高齢者移動サービス

地域の課題（背景）
・地域の高齢化が進んでおり、今後ますます重要になる事業である。 ・高齢者の生活基盤となる買い物や通院等について、移動の手段に困っている。 ・デマンド交通、巡回バスがあるが、利用するには、不便を感じる面が多い。 ・事業の支えとなるボランティアの高齢化、人数の減少。 ・サービス利用者の個別課題により、対応が困難な利用者が増えつつある。

推進方法（地域でできることをより具体的に記入）
・ボランティア（運転、予約受付配車）の恒常的な発掘。 ・デマンド交通網とのマッチングで地域住民のニーズに対応する。 ・ボランティア（運転、受付）間で利用者情報を共有し、「見守りネットワーク」に情報提供する体制を構築する。

自助(自分でできること)
・ボランティア（運転、受付）活動への協力依頼 ・区長、自治会長、民生委員児童委員と連携し、利用者の状況を注視する。 ・市、市社協との連携。

公助（行政や社協に依頼すること）
・参考となる情報の提供。 ・活動に関するPR。 ・必要経費に対する助成。

令和7年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者の憩いの場の提供
事業名	
石津地区サロン運営事業	
地域の課題（背景）	
・高齢化、独居、核家族化が進む地域である。 ・高齢者が集まる機会が減少し、交流の場が少ない。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・毎月1回（第4金曜日）、地区社協事務所にて定期的を開催する。 ・サロンに合わせて、野菜や果物などの朝市を開催し、参加者の増員を図る。 ・石津地区内でサロン事業未実施の区、自治会にサロン実施への支援を行う。	
自助(自分でできること)	
・「地区社協だより」の掲載による広報と口コミにより参加者を集める。 ・「朝市」に協力してもらい農家との連携を更に図り、出品物の内容を充実させる。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・市内、市外のサロン運営等の情報提供をお願いしたい。	

令和7年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域コミュニティの核である小学校との連携
事業名	
世代間交流推進事業	
地域の課題（背景）	
・家族、地域でのコミュニケーションを図る機会が減少している。 ・三世代交流となる活動や行事が減少しつつある。 ・小学校と地域の連携による「コミュニティースクール」活動に協力を求められている。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①米づくり体験活動（石津小学校の行事に協力） ・農事組合田鶴ファームおよびJAにしみの経済営農センターの協力を得、地区社協の三者の特徴を合わせた支援を行い「米生産」の1年間の体験学習を行い、児童に地域とのつながりを感じてもらう。 ②さつま芋作り体験活動（石津小学校、認定こども園に協力） ・田鶴地区の農業ボランティアの指導を得て、地区社協の有志も参加する。他地区からの協力も得て焼き芋パーティーを広域連携での開催支援をする。 ③福祉標語の募集 ・石津小学校の6年生を対象に、福祉に関する標語を募集する。 ・全員に参加賞を贈呈し、優秀作品（12点）を選定し、石津地区社協だよりに掲載する。	
自助(自分でできること)	
・農業ボランティアなど、活動に協力してくれる仲間を募る。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・他地区の開催状況等の情報を提供して欲しい。	

令和7年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らせる地域づくり
事業名	
スクールボランティア	
地域の課題（背景）	
・車社会となり、児童の登下校時の安全や、近年では変質者も各地で報告されている。 ・ボランティアも高齢化し、活動の低下が懸念される。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・石津小学校と連携し、登下校時の見守り活動を継続する。 ・ボランティア間の情報共有を図り、区、自治会と連携した人材の確保を図る。	
自助(自分でできること)	
・児童の登下校時の見守り活動。 ・メンバーでの情報共有や新しい人材の確保を図る。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・地域の運転手への安全運転の啓発。 ・地域の方への活動への理解を深めるための周知や他地区での活動団体との情報交換会などを行って欲しい。	

令和7年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らせる地域づくり
---------	----------------------------

事業名
地域安全（青色安全パトロールの実施）

地域の課題（背景）
・空き家などへの「忍び込む」や空き巣などの犯罪の増加や小学校児童の下校時の安全確保への対策が必要な状況。 ・行方不明高齢者やごみの不法投棄など、関係機関との連携が必要となる事案が発生する恐れがある。 ・ボランティアの高齢化と減少。

推進方法（地域でできることをより具体的に記入）
・青色防犯パトロールを実施することで安全対策がされている地域であるとアピールをする。 ・ボランティアの協力者の確保に努め、パトロールの回数を維持する。 ・行方不明者の捜索やごみの不法投棄の発見などの協力の継続。 ・石津小学校、行政、警察等との連携、情報共有。

自助(自分でできること)
・児童の下校時を中心とした見守り活動とその活動中のゴミ不法投棄場所の発見など。 ・区、自治会との連携およびボランティアの協力依頼

公助（行政や社協に依頼すること）
警察との連携、情報の提供。

令和7年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らせる地域づくり
事業名	
災害対策	
地域の課題（背景）	
・災害はいつ発生するか分からないが、そのうちいつか必ず発生することを前提に対策をする。 ・区、自治会は災害発生時は地区内の住民の安全確保が第一義となることから、地域（小学校区）を俯瞰する災害対策が必要。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・防災士会や行政機関と連携し、学習会や講演会を計画する。 ・区、自治会と密に連携し、事業を行う。	
自助(自分でできること)	
・防災士との日常的なつながりの確保。 ・地区社協運営委員会での情報共有。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・市役所担当部署からの情報や物品の提供。	

令和7年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	地区社協の活動を広く周知する
事業名	
地区社協活動の効率化および周知啓発	
地域の課題（背景）	
・地区社協活動が地域住民に浸透していない。 ・地区社協活動状況を地域の方に知ってもらい、活動に参加してもらうことが必要。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
（会議） ・総務部会の打合せはSNS等を使用し、効率化を図る。 ・運営委員会は年6回開催し、定例化する。 ・理事会は年2回以上開催し、石津地区の課題抽出を行う。 ・評議員会は理事会からの提案を基に、原則年1回以上開催する。 （会計事務） ・老朽化した拠点事務所の管理、整備、保有車両およびPC等機材の維持、保全。 ・管理人材の育成を図る。 （基盤強化） ・地区内外の異業種組織との交流を進め、次世代の交流の輪を広めるとともに、基盤の強化を図る。 （情報発信） ・「石津地区社協だより」を年6回発行し、各区、自治会に配布する。 ・編集員会体制を確立し、月2回の編集会議を開催。 ・新たな人材の確保。 ・SNS等の活用を検討。 （その他） ・石津地区社協設立（2011.1）から15年の節目を迎えるため、記念事業等を企画する。	
自助(自分でできること)	
・「石津地区社協だより」を見やすく読みやすい紙面とし、活動報告を掲載する。 ・協賛企業を募り、自主財源を確保。 ・15周年記念式典に向けて、地域住民への周知	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・情報の提供など、紙面づくりへの協力。	

関 係 資 料 等

資料1. 海津市地域福祉推進計画

資料2. 地区社会福祉協議会活動

計画の策定に当たって

計画策定の背景

近年、急速な少子高齢化や核家族化の進展、家庭や地域でお互いに助け合う相互扶助の低下、個人の価値観の多様化や地域のつながりづくりの希薄化など、地域を取り巻く環境は変容しつつあります。これにより、地域ではひきこもり、孤独死、生活困窮者、ヤングケアラー、ダブルケア、8050 問題などの新たな福祉課題が発生しており、平準化された既存サービスでは対応しきれない制度の狭間で課題を抱えた方が適切な公的支援を受けられないという問題が起きています。

また近年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出や地域での活動が制限され、従来の様々な活動が停滞し社会的な孤立感が高まるなど、市民の生活に大きな影響を及ぼしています。このような中、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、福祉制度によるサービスのみで支えることは難しく地域住民や関係団体、社会福祉協議会が共通の認識のもと協働して、様々な支え合いや助け合いの活動に取り組んでいくことが必要となっています。

国においては、平成 28（2016）年 7 月に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部」を設置し、制度・分野ごとの縦割りや「支え手」、「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として地域社会に参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、地域住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現を目指しています。

地域福祉の基本的な考え方

「地域福祉」とは、高齢者や障がい者、子育て家庭、生活困窮者が、年齢や属性に関わらず、それぞれの地域においてだれもが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市民・地域を中心とした様々な主体が協働のもと、地域で支援を必要としている方の様々な困りごとや不安を、ともに支え合い、助け合いながら、市民一人ひとりが地域における福祉課題の解決に向けて取り組む考え方です。地域福祉を推進するためには、自分ができることは自分で取り組み社会参加に向けての力を高める「自助」、地域住民同士が支え合う「互助」、社会保障制度等の「共助」、行政による「公助」が連携・協力によって解決する取り組みが必要です。本市では、「互助」、「共助」は住民が互いに支え合うという理念が共通していることから、本計画では「互助・共助」という表記をします。

これまでの策定状況と新たな計画

これまで海津市では行政としての施策や考え方を位置づけた「地域福祉計画」と、市社協の取組みを位置づけた「地域福祉活動計画」に基づき、3期にわたって地域福祉を推進してきました。

「地域福祉計画」は、社会福祉法第107条の規定に基づき、市町村が行政計画として策定するものであり、「地域の助け合いによる福祉（地域福祉）」を推進するために、人と人のつながりを基本として、「顔の見える関係づくり」、「ともに生きる社会づくり」を目指すための「理念」と「仕組み」をつくる計画です。

また、「地域福祉活動計画」は、社会福祉法第109条の規定に基づく民間組織である社会福祉協議会が活動計画として策定するものであり、「すべての住民」、「地域での福祉活動を行う者」、「福祉事業を営む者」が相互に協力して、地域福祉の推進を目的とする実践的な活動・行動計画です。

複雑化・複合化した地域課題が増加する中、現行の仕組みでは対応しきれない多様な生活課題に対応するため、市と市社協の連携を深めながら、実効性の高い施策を展開する必要があります。そのため、新たな計画では、これまでそれぞれに策定していた地域福祉計画と地域福祉活動計画を統合し、ひとつの「地域福祉推進計画」として策定します。

計画の位置づけ

本計画は、海津市総合計画を上位計画とし、福祉の各分野における共通事項を定め、他の分野別計画の上位に位置づけます。また、本計画においては、社会福祉法第106条の5に基づき「重層的支援体制整備事業実施計画」に加え、成年後見制度の利用の促進に関する法律第14条に基づき「成年後見制度利用促進計画」、再犯の防止等の推進に関する法律第8条に基づき「再犯防止推進計画」を包含する計画として策定します。加えて、本計画は、国の示す「市町村地域福祉計画ガイドライン」に基づき、「子ども・子育て支援事業計画」、「介護保険事業計画」、「障がい者計画」などの地域福祉の視点や理念・方針・推進方向を明示し、地域における展開を総括する役割を持ちます。

計画の期間

本計画の期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とします。また、社会環境等の変化に対応し、必要が生じた場合にはその都度見直します。

地域福祉推進計画の基本理念と施策体系

基本理念

つながりの輪で だれもが笑顔あふれるまち かいづ

本市では、市民一人ひとりが助け合いの心を持ち、年齢や障がいの有無、住んでいる地域に関わらず、あらゆる主体がつながり、共に支え合うことで、だれもが地域において自分らしく笑顔で暮らせるまちを目指していきます。

基本目標1 地域福祉意識の向上

施策	施策の方向
1 人権尊重の推進	人権問題を正しく理解するため、講演・研修をはじめ、広報を通じて人権啓発活動を行います。
2 支え合う意識の醸成	子どものころから支え合う意識を育むことができるよう、学校と地域が連携して、福祉教育や地域活動への積極的な参加を促進します。
3 情報提供の充実	様々な情報媒体を活用して、福祉に関する情報をわかりやすく発信します。

基本目標2 地域福祉活動の推進

施策	施策の方向
1 地域福祉のネットワークづくり	地域における見守りや、ネットワークづくりを支援し、市・市社協が連携して複雑化・複合化する地域課題に対応できる支援体制を整備します。
2 地域福祉の担い手づくりの推進	担い手を発掘するために、情報を発信するとともに、ボランティアセンターの強化を図ります。また、各種講座等を開催し、地域のリーダーを育成します。
3 交流・つながる場づくりの推進	市民の様々な悩みごとや困りごとが早期相談や支援につながるように、地域における声かけやあいさつを促進するとともに、幅広い世代が交流できる機会を増やすことで、顔の見える地域づくりを推進します。
4 生活困窮者への支援の充実	生活困窮者に対し、生活福祉資金や食料支援を行うことにより自立支援を推進し、生活を支えるとともに、貧困・孤立した子どもに対しても、学習支援や子どもの居場所づくりを推進します。
5 権利擁護の支援 【成年後見制度利用促進計画】	権利擁護が必要な人に対し、相談業務、後見申立費用や報酬助成など、成年後見制度の利用促進に向けた支援を行います。また、包括的な支援を行うため、中核機関を中心とした権利擁護ネットワークを構築します。
6 再犯防止・立ち直り支援 【再犯防止推進計画】	再犯によって市民が犯罪被害に遭うことを防止し、安心・安全に暮らせる社会とするため、地域と行政、関係団体が連携し、犯罪等をした人が地域で孤立することなく生活を送ることができるよう、切れ目のない支援を行います。

基本目標3 地域福祉の環境づくり

施策	施策の方向
1 相談体制の充実	市民からの相談を幅広く受け止められる包括的支援体制を構築します。
2 福祉サービスの充実	住み慣れた地域で安心して生活できるよう、医療・保健・福祉・介護サービスの充実を図ります。
3 住みよい環境づくり	だれもが暮らしやすいまちを目指し、ユニバーサルデザイン、バリアフリー化を進めるとともに、安全な移動手段を確保します。
4 防災・防犯の推進	安心して暮らせる地域を目指し、地域の防災体制の強化を図るとともに、防犯対策を推進します。

5つの重点施策

本計画では、本市の課題に対応すべく特に推進していく5つの施策を「重点施策」として定めています。

1 多機関協働体制の構築

複雑化・複合化した地域課題に対応するため、多機関連携の中核を担う協働体制を構築し、支援関係機関の役割分担や支援の方向性の整理を行います。

2 地域でのつながりづくり

すべての市民が隣近所や地域とのつながりを継続的に持ち続けられるよう、つどいの場の確保・充実を図り、助け合い・支え合いのコミュニティづくりを行います。

3 地域福祉の担い手育成

地域の担い手を発掘・育成するため、地域福祉コーディネーターを配置し、各種ボランティア養成講座を行うとともに、ボランティアセンターを通じて、市民や団体のボランティア登録を推進します。

また、福祉広報活動により市民の福祉意識の高揚と相互扶助意識の醸成を図ります。

4 相談・支援体制の充実

市民からの様々な相談を幅広く受け止め、利用可能な福祉サービスを提供する支援機関につなげるため、包括的な相談支援体制を整備します。

また、社会的孤立を防ぐため、訪問等を通じて継続的支援を行います。

5 移動支援

高齢者等の日常生活における移動手段を確保するため、既存の移送サービスが継続して提供されるよう、地域の人材発掘・育成、運営補助などの支援を行います。

また、新たな移送サービスが開始されるよう、立ち上げ支援を行います。

1. 地区社会福祉協議会（地区社協）とは・・・

目 的

地区社協は、住民一人ひとりが、自ら進んで、生きがいをもって、健康で安心して暮らせる、地区の福祉活動を進めることを目的とします。

活 動 範 囲

海津市では、小学校区等を単位としています。

組 織

地区社協は、区・自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、ボランティア、その他の福祉関係団体などから選出された方々によって構成される住民組織です。

それぞれの地区によって組織体制や関わる方は多少違ってきます。

2. 地区社協の役割

○住みよいまちづくりの推進役

子育て、高齢者とのふれあい、障がい者支援、青少年をとりまく環境、地域の連帯意識など様々な問題について、住民がともに考え行動する組織です。

○各種団体の協力体制の場づくり

地域内で活動している各種団体の連携により、多様化した問題の解決を図ります。

○ボランティア活動の輪を広げる活動

各種事業や育成講座の開催を通じて、子どもから高齢者までを対象にボランティア意識の向上を図り、活動の輪を広めます。



▲城山地区社協の生活支援活動

3. 市社協と地区社協の関係

市社協と地区社協は、対象とする範囲は違いますが、地域における福祉課題を解決するため、住民が主体となって活動するという基本的な目標は共通しています。また地区社協は市社協とともに地域福祉の重要な組織です。したがって、市社協と地区社協は緊密に連携して活動を進めていく必要があります。

市社協は、情報提供や連絡調整を行うなどして地区社協の活動を支援します。

4. 地区社協設立の経過

設立年月日	地 区 名
平成22年 3月25日 3月27日 4月17日 10月 7日	今尾地区社会福祉協議会 海西地区社会福祉協議会 高須地区社会福祉協議会 吉里地区社会福祉協議会
平成23年 1月23日	石津地区社会福祉協議会
平成25年 1月19日 4月26日 6月28日	下多度地区社会福祉協議会 西江地区社会福祉協議会 大江地区社会福祉協議会
平成26年 4月 4日	東江地区社会福祉協議会
平成27年 6月21日	城山地区社会福祉協議会

5. 地区社会福祉協議会連絡会

各地区社協の代表者が集い、相互の情報交換と、運営に関する研修及び調査等を行うことを目的に「地区社協連絡会」を開催しています。

連絡会は、各地区の会長、副会長で構成されています。また、必要に応じて各地区社協の役員も参加します。



▲地区社協連絡会の様子

6. 地区社協の活動

地区社協では、各地区の福祉課題などに応じて、様々な事業を自主的に企画・実施します。

活 動 例

○地区福祉座談会、地区福祉懇談会

地区の福祉課題について、多くの方が意見交換をし、課題の発見や活動の推進を行います。

○スクールボランティア

児童・生徒の登下校時の見守りを行います。

○友愛ふれあい訪問

見守りが必要と思われる方に対して、困りごとがないかを聞くなどして、健康状態や安否の確認をします。

○広域ふれあいいきいきサロン

集会所などに、高齢者や障がい者、子育てをしている方などが集まり、話をしたりレクリエーションを楽しむことで、仲間づくりを行います。

○生活支援活動

地域住民の日常生活の困りごとを把握し、住民同士が助け合う仕組みづくりを行います。（例：ゴミ出し、草取り、庭木の剪定、買い物代行など）

○高齢者送迎サービス

公共交通機関を使って外出が困難と思われる高齢者などに対し、住民の協力を得て送迎ボランティア活動を行います。

○三世代交流事業の実施

子ども会や育成会、いきいきクラブ海津など様々な世代間の交流を通じ、地区の輪を広げます。

○会食会

ひとり暮らし高齢者などを対象に、地区ごとに敬老会やお花見会などを行います。

○地区防災活動

○広報紙の発行

○ボランティアのつどい

○研修会・講演会 など



▲西江地区社協 高齢者外出・買い物支援サービス

海津市地域福祉活動計画

**令和 7 年度
地区福祉活動計画**

◆令和 7 年 7 月◆

発行 社会福祉法人 海津市社会福祉協議会

〒503-0411 海津市南濃町駒野 8 2 7 番地 1

(海津市南濃総合福祉会館 ゆとりの森)

TEL:0584-55-2300 FAX:0584-55-1990



海 津 市 地 域 福 祉 活 動 計 画

令和7年度 地区福祉活動計画

社会福祉法人 海津市社会福祉協議会